

第1章

昭和町の現況と課題



第1章 昭和町の現況と課題

1 昭和町の立地条件と特色

(1) 昭和町の立地条件

本町は、甲府盆地の中心部に位置する田園都市で、広域的な交通条件に恵まれ、県内のどの都市にもアクセスが容易な利便性の高い町です。

今後、近接して設置されるリニア中央新幹線山梨県駅の開業などに伴い、更なる発展が期待されています。

昭和町は、東京から120km圏、山梨県の中央部、甲府盆地の中心に位置し、東は甲府市に、北は甲斐市に、南は中央市に、西は南アルプス市に隣接する面積9.08km²の県内では最も行政区域面積の小さい町です。

地勢的には、町の西方に釜無川が流れ、町全体が釜無川扇状地上の平坦な地形となっており、古くから豊かな水の恵みを利用した穀倉地帯として発展してきました。

その後、甲府市に隣接することから幹線道路の整備と併せ、都市化が進展し、昭和50年以降は釜無・国母の2つの工業団地や土地区画整理事業などの市街地整備が進み、県内でも有数の人口増加率が高い基盤整備の整った都市として大きく発展してきました。

交通網としては、町の北部に中央自動車道（甲府昭和IC）、国道20号（甲府バイパス）が横断しているほか、（主）甲府市川三郷線（昭和バイパス）、（主）甲府南アルプス線（アルプス通り）、（主）甲斐中央線などが通り、広域的な交通アクセスに恵まれています。また、町の東南部にJR身延線が走っており、常永駅と国母駅の2つの駅があります。

周辺では、リニア中央新幹線山梨県駅の設置が予定され、静岡県と長野県を結ぶ中部横断自動車道や新山梨環状道路（東部区間）の整備も進められているなど、今後の広域的な交通条件の向上により、更なる発展が期待されています。

■昭和町の位置



(2) 昭和町の特徴

昭和町の大きな特色として、次のようなものが挙げられます。

■コンパクトなまち

本町は、面積 9.08 km² と県内では最も面積の小さな町ですが、山梨県内の自治体ランキングからみると、平成 27 年度の財政力指数県内第 3 位、人口増加率と人口密度は県内第 1 位となっています。また、大規模工業団地をはじめ、土地区画整理事業や幹線道路などの都市基盤整備が進められ、住・商・工のバランスがとれたコンパクトな町が形成されています。



・昭和町周辺全景

■人口が集中し若い世代が多く住むまち

本町は、甲府市中心部に近接し、交通の利便性が高く、働く場も多いことなどから、人口は増加を続け、その増加率は県内第 1 位となっています。また、65 歳以上の「高齢者人口」の割合は、県内で 2 番目に低く、若い世代が多いこと、外国籍住民も多く住んでいることが、本町の特色となっています。



・ふるさとふれあい祭り

■基盤整備が整ったまち

本町は、かつては稲作を中心とする農村集落として発展してきました。

しかし、近年は、甲府盆地の中心にある恵まれた環境を活かし、12 地区の土地区画整理事業の実施、工業団地の造成や大型商業施設の誘致、道路整備など計画的な基盤整備が進み、田園環境を備えながらも機能的で利便性の高い郊外住宅都市となっています。



・常永地区のまちなみ

■県内有数の商工業の集積を誇るまち

本町は、釜無工業団地や国母工業団地が立地し、県内有数の工業集積地となっているほか、恵まれた交通条件を背景に大規模商業施設をはじめとする商業業務施設も多く集積しています。

今後、リニア中央新幹線山梨県駅が近接して整備されることから、新たな企業進出や都市機能の立地が期待されています。



・大規模商業施設

■特色ある地域資源

本町は、山地やまとまった森林がない県内唯一の自治体で、町域全体が平坦地となっています。そのため、地域資源としては、豊富な水資源、肥沃な土壌、町を縦横に流れる河川や用水路の水辺環境、社寺林・屋敷林・桜並木などの緑、町の中央部に広がる農地の緑と田園景観、周囲の山々を遠望する眺望景観、ヒバリやホタル等の生息環境など、身近な資源が中心となっています。

また、釜無川の氾濫で多くの歴史的遺産が流出しましたが、往時の歴史をしのぶ文化財、古道、道祖神、伝統行事や祭りなど、身近な歴史文化資源が有形無形に息づいています。



・ホタルの名所であった鎌田川

2 昭和町の概況

(1) 自然環境

本町は、全域が釜無川氾濫原のゆるやかな扇状地形で、山地がなく平坦地が広がっています。気候は比較的穏やかで、豊かな水資源とうるおいある水辺環境、社寺林や屋敷林、田園の緑、山なみの優れた眺望景観など、自然環境は身近なものが中心となっています。

1) 気候風土

本町の気候は、盆地特有の内陸性気候のため、夏季と冬季の気温差、昼と夜の気温差が比較的大きく、冬は季節風が強いものの降雪は少なくなっています。また、年間降水量は比較的少なく日照時間が長いなど、県内では年間を通しておおむね穏やかで暮らしやすい気候風土となっています。

2) 地 形

本町は、山地や丘陵地がなく、町の西方を流れる釜無川によって形成されたゆるやかな扇状地で、全体的に平坦な地形となっています。そのため、町内には大きな河川はなく、幾筋もの中小河川や水路が流れています。

3) 水系・水環境

本町は富士川水系の2つの河川流域（釜無川流域、笛吹川流域）に属しており、常永川、清川排水路（大川）、東花輪川（山伏川）、渋川、鎌田川の5つの河川が流れています。常永川は釜無川へ、その他の河川は笛吹川に流入しており、これらの河川により町の雨水排水が処理されています。

西条地区には、釜無川の地下水を水源とする昭和浄水場や11箇所の源泉があり、甲府盆地深層熱水温泉帯に属しているため、温泉が湧出するなど、水資源に恵まれています。

これらの水辺環境の保全を図るため、本町では自然生態系に配慮した河川や水路の整備、小学校におけるピオトープの整備、自然学習の場の確保などに努めています。

4) 眺望

本町全域が平坦な地形であることから、富士山や御坂山地、南アルプス、八ヶ岳、秩父山地、大菩薩連嶺など、甲府盆地を囲む山なみの眺望が開け、本町の景観の大きな特色となっています。

5) 動植物

本町は、山林がないため、社寺林や屋敷林を除きまとまった樹林地は少なく、自然的植生は河川敷や湿地など水辺の植物群が中心となっています。

鎌田川流域は、かつては、生息するゲンジボタルが天然記念物に指定されるなど、豊かな水辺環境を有していました。しかし、ホタルの繁殖地には日本住血吸虫病の中間宿主である宮入貝が生息していたことから、殺貝の駆除薬の散布などによって宮入貝とともにホタルも減り、ほとんど姿を見なくなりました。現在、ホタルの幼虫の放流や育成活動、花しょうぶの植栽など、水辺環境の保全や自然生態系の再生の取り組みが行われています。

また、かつてはヒバリが多く見られ、町の鳥にも指定されていますが、麦畑の減少に伴いその数も減少しています。

(2)町の成り立ち

本町の歴史は古く、平安時代後期から現在のまちの基礎となる集落や荘園が形成され、稲作を中心とした純農村地域として、また、県内有数の穀倉地帯として発達してきました。

町の成り立ちに関する歴史性として、平安時代の源義清ゆかりの歴史、戦国時代の「霞堤」などの釜無川治水事業の歴史、江戸時代の駿州往還による集落形成の歴史（宿町や寺子屋）などが挙げられます。

■古代～中世

本町の歴史は古く、平安時代後期には甲府盆地各地で荘園が成立し、押越や紙漉阿原が鎌田荘に属していたと考えられています。現在のまちの基礎となる集落や荘園は、この時代に形成されていたと考えられています。

西条の義清神社は源義清の居館跡とする伝承があり、付近には義清の墳墓とされる義清塚があります。

本町は釜無川の氾濫原に位置していたことから、集落や農業の未発達時代が長く続きましたが、戦国時代には武田信玄による釜無川・御勅使川の治水事業が行われ、「信玄堤」や「霞堤」等が築堤されたことにより、開発が本格化し、戦国末期から近世初頭にかけて各地に集落が形成されるようになったとされています。



・義清神社

■近 世

江戸時代には西条・西条新田・清水新居・河東中島・押越・紙漉阿原・築地新居・築地新田・飯喰・河西・上河東の11の村が存在しており、町内には駿州往還が通過し、河東中島には宿駅が、築地新居には釜無川を渡る渡船場があったとされています。また、このころは本町に寺子屋が数多く存在していたとされています。

■近代～現代

江戸時代の11か村は、明治時代の大合併により西条村、押原村、常永村の3か村となり、さらに明治22年に西条村と押原村が合併し、約半世紀の間組合村が継続しました。昭和17年7月には、町の母体となる昭和村が誕生し、県内有数の穀倉地帯として発達しました。その後、昭和46年4月に現在の昭和町となり今日に至っています。

現代においては、戦後のモータリゼーションや都市化の進展に伴い、中央自動車道の開通、2つの工業団地（国母工業団地、釜無工業団地）の整備と企業進出、土地区画整理事業などの都市基盤整備の推進、大型ショッピングセンターの進出など、急速に都市化が進展し、飛躍的な発展を遂げています。

また、県都甲府市に近く利便性が高いことから宅地化の進行も著しく、県内の多くの自治体が人口減少している中であって、現在も県内有数の人口増加を続けています。

(3)人口・世帯等の動向

本町の人口・世帯数は、これまで一貫して増加傾向にあり、県内で有数の人口増加率となっています。また、県内では高齢者人口の比率は低く、年少人口の比率も高いなど若い世代の多い町といえますが、少子・高齢化は着実に進んでいます。

人口は市街化区域に集中しており、市街化調整区域との人口の二極化が目立ってきています。

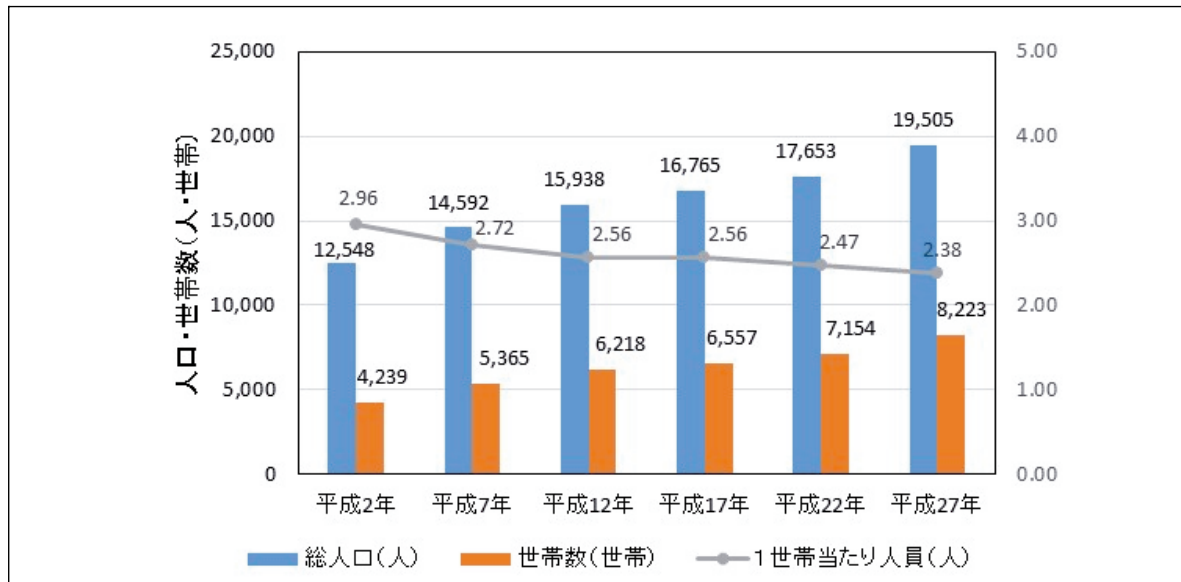
1)人口・世帯数

①総人口・世帯数の推移

本町の人口・世帯数は、平成27年10月1日現在、総人口19,505人、8,223世帯（国勢調査）となっています。

推移をみると、人口及び世帯数は平成2年から平成27年まで一貫して増加を続ける一方、世帯人員は減少しており、核家族化が進行しています。

■人口・世帯数の推移



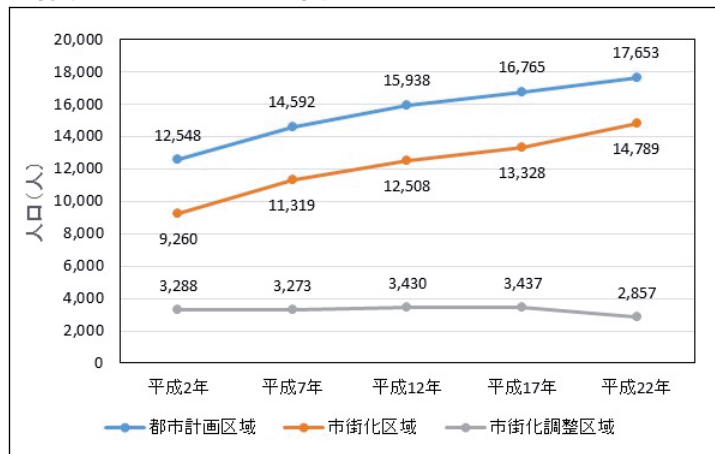
〔資料：国勢調査〕

②都市計画区域の人口推移

本町は全域が都市計画区域であり、平成22年現在の都市計画区域内の人口は、町の人口と同じ17,653人となっています。このうち市街化区域人口は、14,789人で84%が市街化区域に集中しています。

土地区画整理事業の事業地や市街化区域を中心に人口は年々増加傾向にありますが、市街化調整区域は近年減少傾向に転じており、人口の二極化が目立ってきています。

■都市計画区域の人口の推移



〔資料：都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

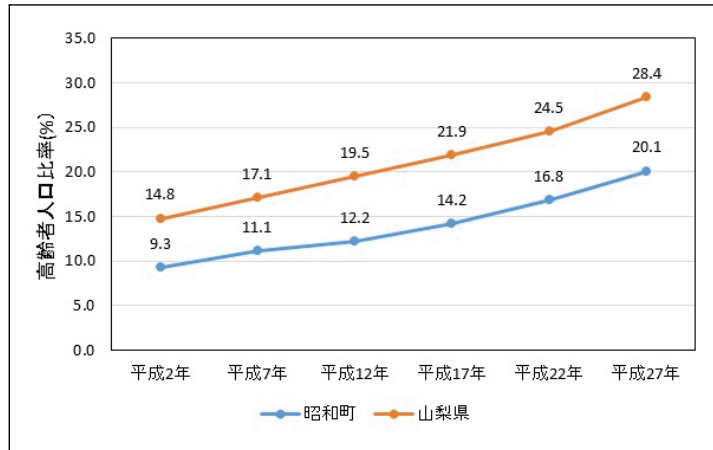
2) 少子・高齢化の状況

① 高齢化の状況

本町の65歳以上の高齢者の割合は、平成27年現在20.1%で、山梨県の平均28.4%と比べて低く、若い世代が多い地域と言えます。

しかし、高齢者人口の比率は年々増加しており、高齢化が着実に進行しています。

■ 高齢者人口比率の推移

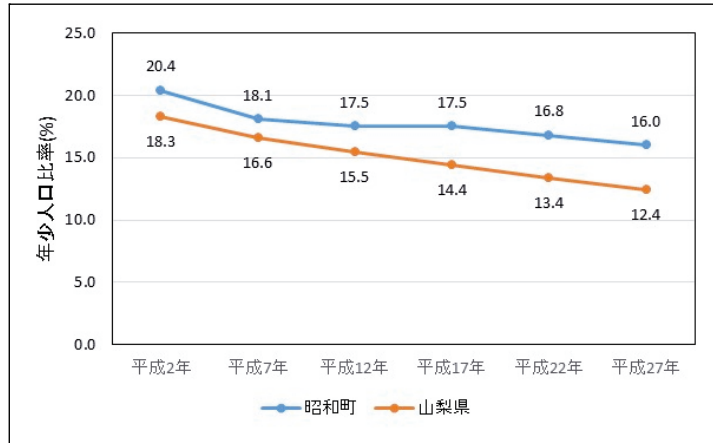


〔資料：国勢調査〕

② 少子化の状況

本町の総人口に占める15歳未満の「年少人口」の割合は、平成27年現在16.0%であり、山梨県の平均12.4%と比べて高いものの、平成2年の20.4%から年々減少傾向にあり、少子化が着実に進行しています。

■ 年少人口比率の推移

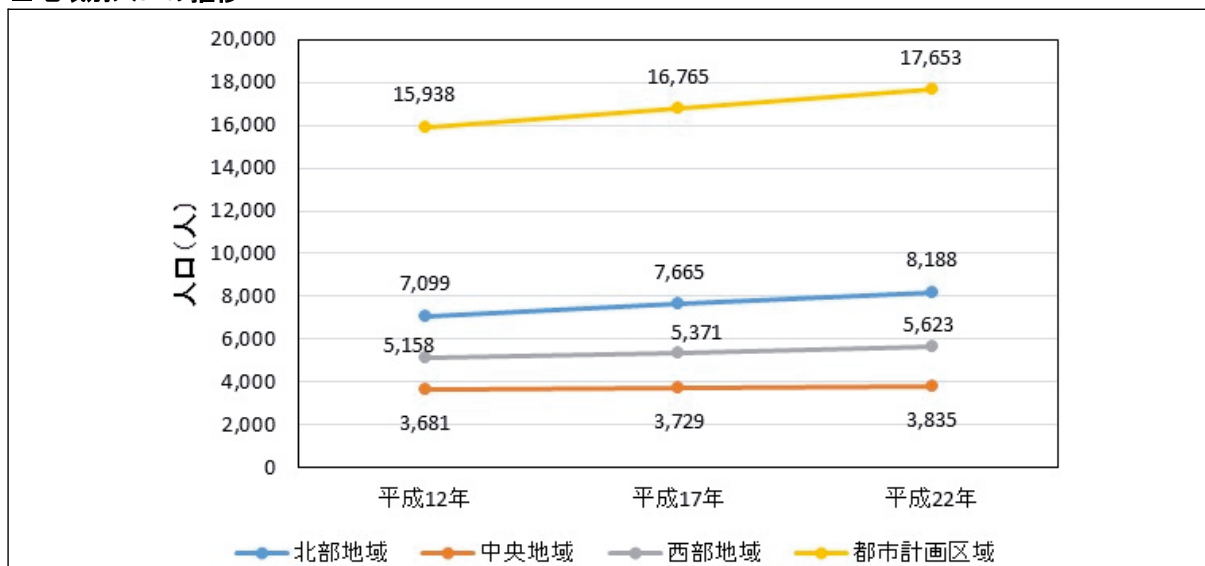


〔資料：国勢調査〕

3) 地域別人口の推移

地域別*の人口分布をみると、各地域とも人口は増加傾向にありますが、市街化区域の多くを占めている北部地域と西部地域の人口が多くなっています。

■ 地域別人口の推移



〔資料：都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

注) *北部地域は西条一区・西条二区・清水新居・西条新田、中央地域は、押越・河東中島・紙漉阿原、西部地域は築地新居・飯喰・河西・上河東・上河東二区を示しています。

4)人口流動の状況

①流出入人口と昼夜間人口

本町の平成 22 年現在の流出入人口（通勤・通学）は次表に示すとおりで、約5千人以上の流入超過となっています。また、昼夜間人口比率も 131%と山梨県内で最も高くなっています。

■流出入人口と昼夜間人口(平成 22 年)

流出入人口		昼夜間人口	
流出口	6,190 人	夜間人口	17,653 人
流入人口	11,681 人	昼間人口	23,144 人
流入超過人口	5,491 人	昼夜間人口比率*	131.1%

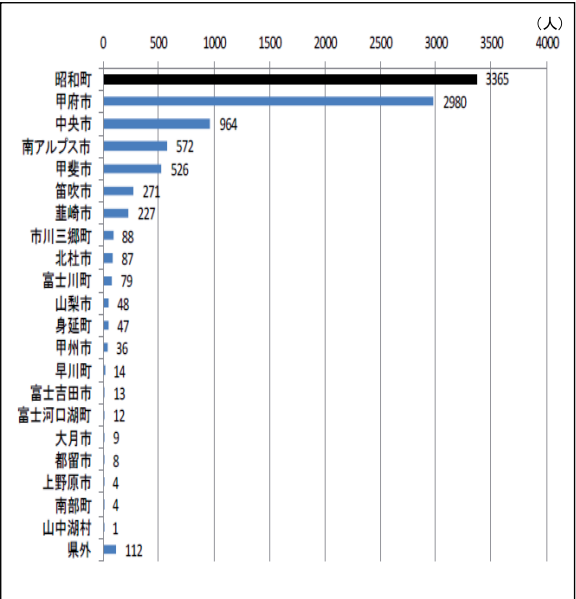
〔資料：都市計画基礎調査（平成 24 年 12 月）〕

②通勤・通学の状況

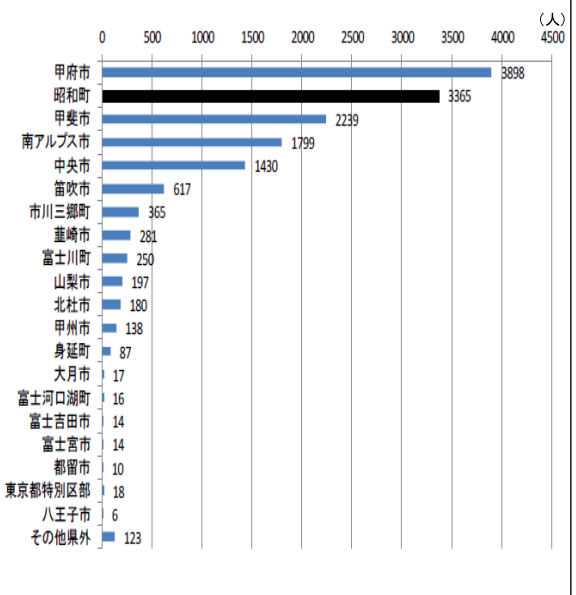
昭和町住民の通勤・通学先は、町内と甲府市が多くを占めています。

また、他地域から昭和町への通勤・通学者は、甲府市が最も多く、次いで、甲斐市、南アルプス市、中央市の順となっています。

■昭和町住民の通勤・通学先



■昭和町への通勤・通学者の居住地



〔出典：昭和町人口ビジョン（平成 27 年 10 月）〕

注）＊昼夜間人口比率：常住人口（夜間人口）100 人あたりの昼間人口の割合のことで、一般的に昼間人口比率が高いほど、勤者・通学者が多い地域となります。

■通勤流動

項 目		平成12年	平成17年	平成22年
総 人 口(人)		15,938	16,765	17,653
常住地による就業者数(人)		8,701	9,096	8,681
流 出	就業者数(人)	5,241	5,468	5,509
	流出率(%)	60	60	63
従業地による就業者数(人)		13,979	14,458	14,245
流 入	就業者数(人)	10,519	10,830	11,004
	流入率(%)	75	75	77
従／常 就業者比率(%)		161	159	164

■通学流動

項 目		平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
総 人 口(人)		15,938	16,765	17,653
常住地による通学者数(人)		827	810	874
流 出	通学者数(人)	549	543	681
	流出率(%)	66	67	78
通学地による通学者数(人)		1,044	874	889
流 入	通学者数(人)	766	607	677
	流入率(%)	73	69	76
通／常 通学者比率(%)		126	108	102

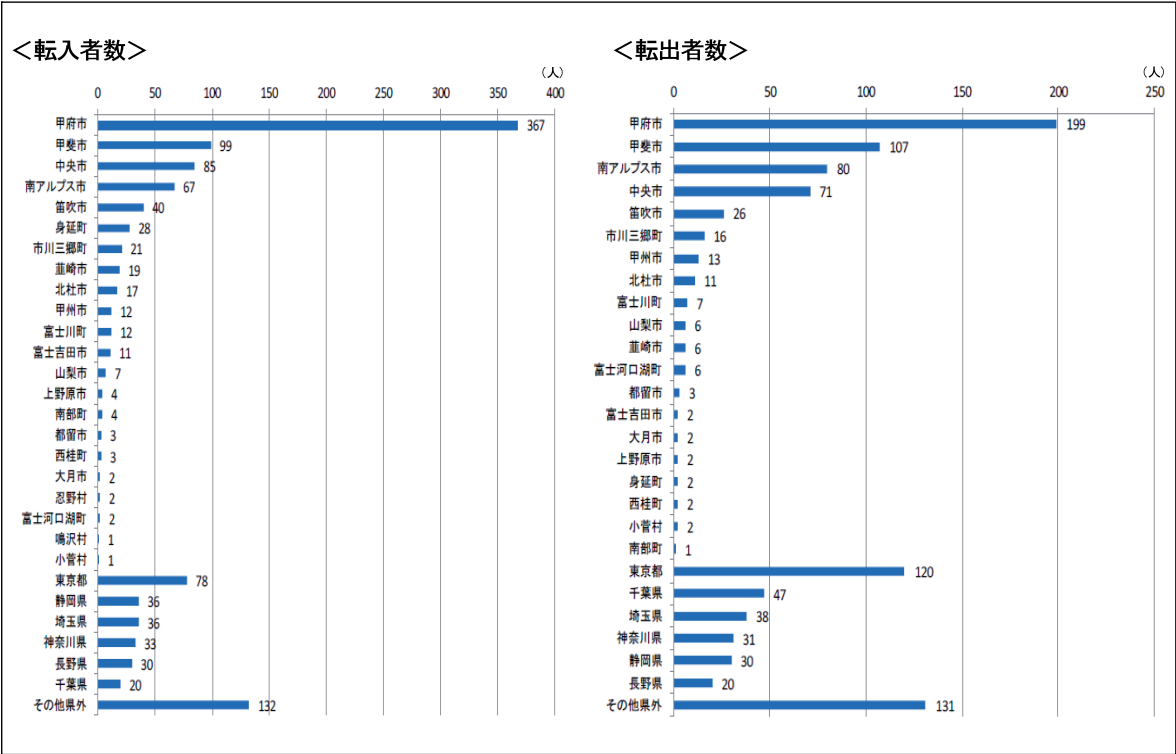
〔資料：都市計画基礎調査（平成 24 年 12 月）〕

③転出入の状況

「住民基本台帳移動報告」によると、平成 25 年の昭和町への地域別の転入者数及び昭和町からの転出者の内訳は下図のとおりで、転入では甲府市が圧倒的に多く、次いで、甲斐市、中央市、南アルプス市、県外では東京都、静岡県、埼玉県、神奈川県順となっています。

また、昭和町からの転出では、甲府市が最も多く、次いで甲斐市、南アルプス市、中央市で、県外では東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県順となっています。

■昭和町の転出入の状況(平成 25 年)



〔出典：昭和町人口ビジョン（平成 27 年 10 月）〕

(4) 産 業

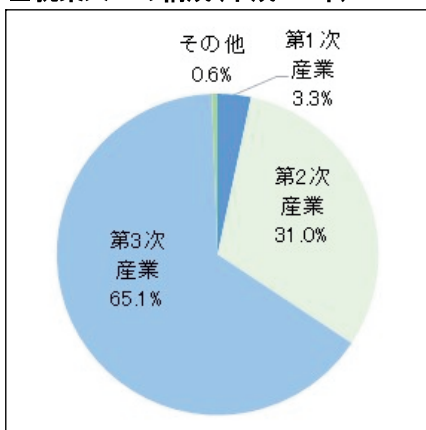
本町の産業は、農業から工業のまちとして発展し、今日では商業等の第3次産業が中心となっています。工業については、生産拠点の海外シフト、中国や東アジア地域の台頭などにより伸び悩んでいる現状です。商業については、大型ショッピングセンターをはじめとした商業業務施設の立地が進み、県内2位の販売規模となっています。農業については、農業就業者の高齢化や後継者不足など営農環境は厳しい状況であり、都市化の進展に伴い土地利用の転換を求める声も少なくありません。

1) 就業構造

本町の就業人口の構成比は、平成22年現在、第3次産業が全体の約65%で最も多く、次に、第2次産業（約31%）、第1次産業（約3%）となっています。就業人口の推移をみると、第1次産業は減少傾向、第2次産業は横ばいから減少傾向、第3次産業は横ばい状況となっています。

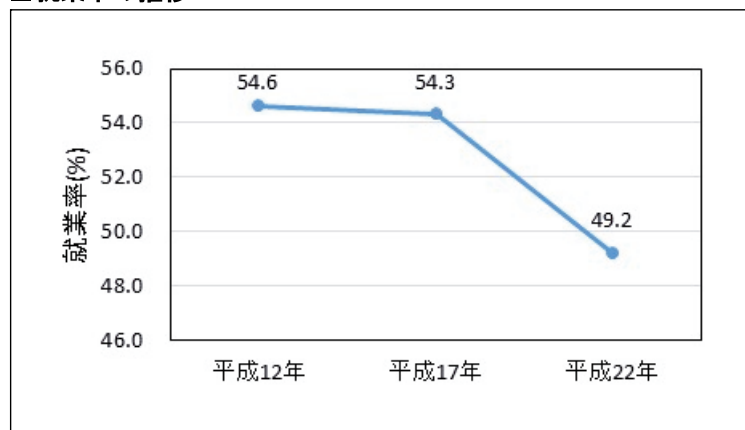
また、就業率は減少傾向にあり、平成22年には50%を下回っています。就業率は、生産年齢人口の減少に伴い、今後も減少が見込まれています。

■ 就業人口の構成(平成22年)



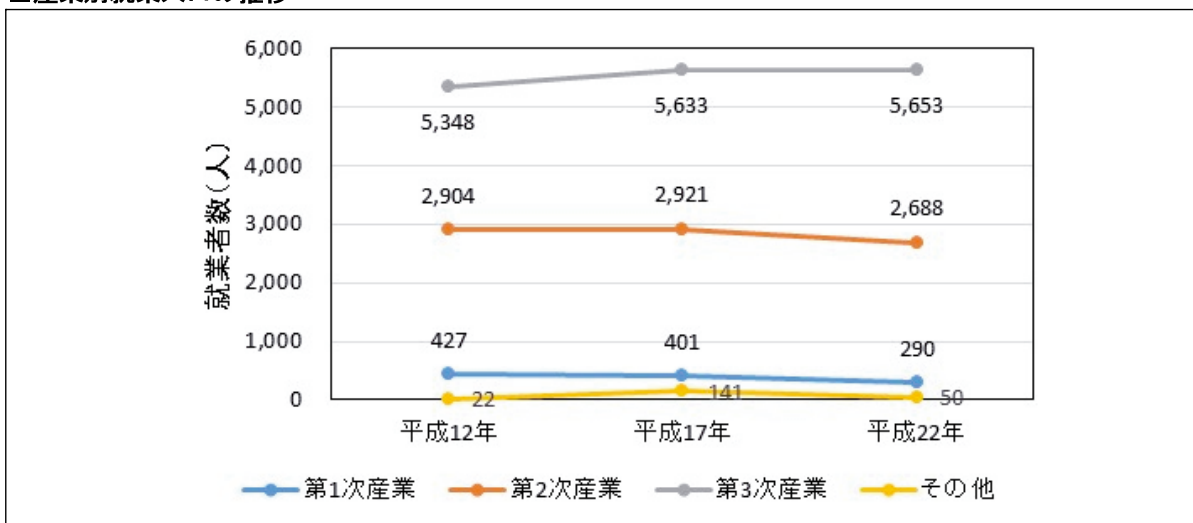
〔資料：国勢調査〕

■ 就業率の推移



〔資料：国勢調査〕

■ 産業別就業人口の推移



〔資料：国勢調査〕

2)産業の概況

①工業(製造業)

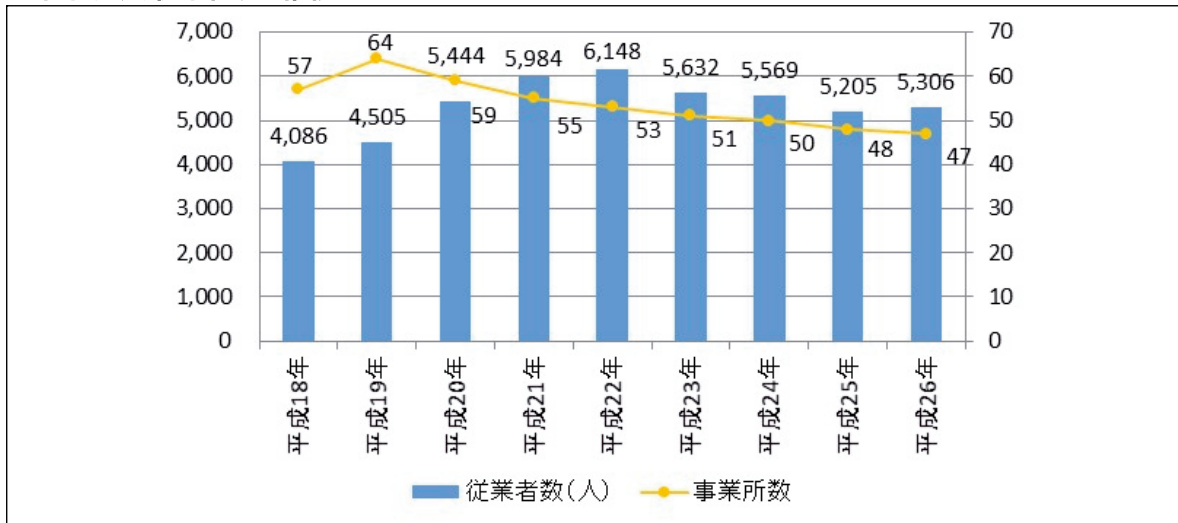
本町には、県内最大規模の国母工業団地、釜無工業団地の2つの工業団地を中心に、先端技術産業の工場が立地しています。

従業者数は平成18年から増加傾向にありましたが、平成22年をピークに減少傾向に転じており、事業所数は平成19年から減少傾向、製造品出荷額は平成22年をピークに、生産拠点の海外シフト、中国や東アジアの台頭などの影響で全体的に伸び悩みの状況にあります。

■工業団地の概要

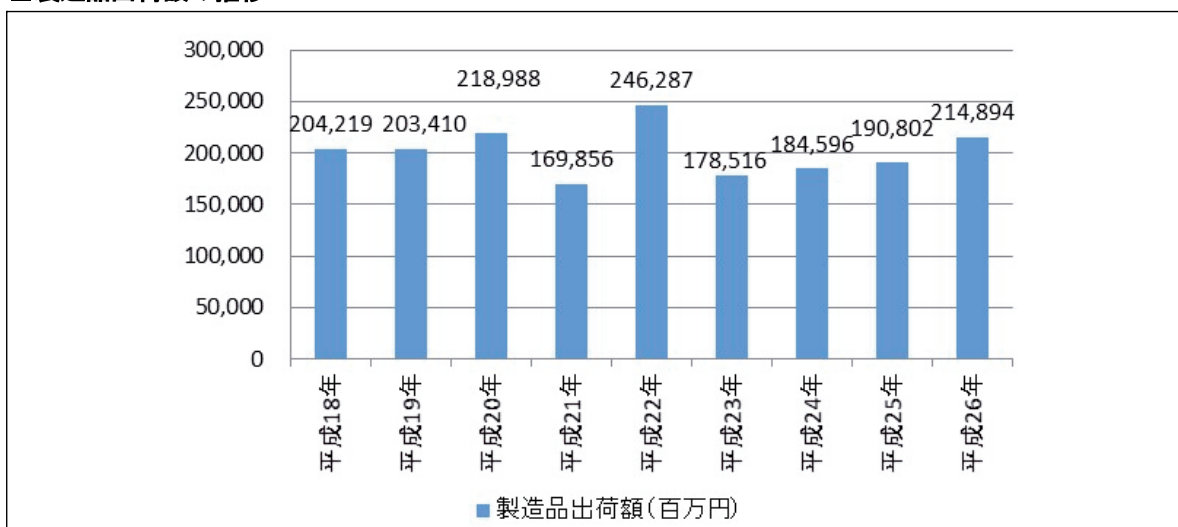
項 目	国母工業団地	釜無工業団地
団地面積	95.8 ha	65.8 ha
事業主体	甲府地区開発事業団	山梨県土地開発公社
所在地	甲府市、中央市、昭和町	昭和町
完成年度	昭和56年度	昭和55年度

■事業所数、従業者数の推移



〔資料：工業統計調査（4人以上製造事業所対象）〕

■製造品出荷額の推移



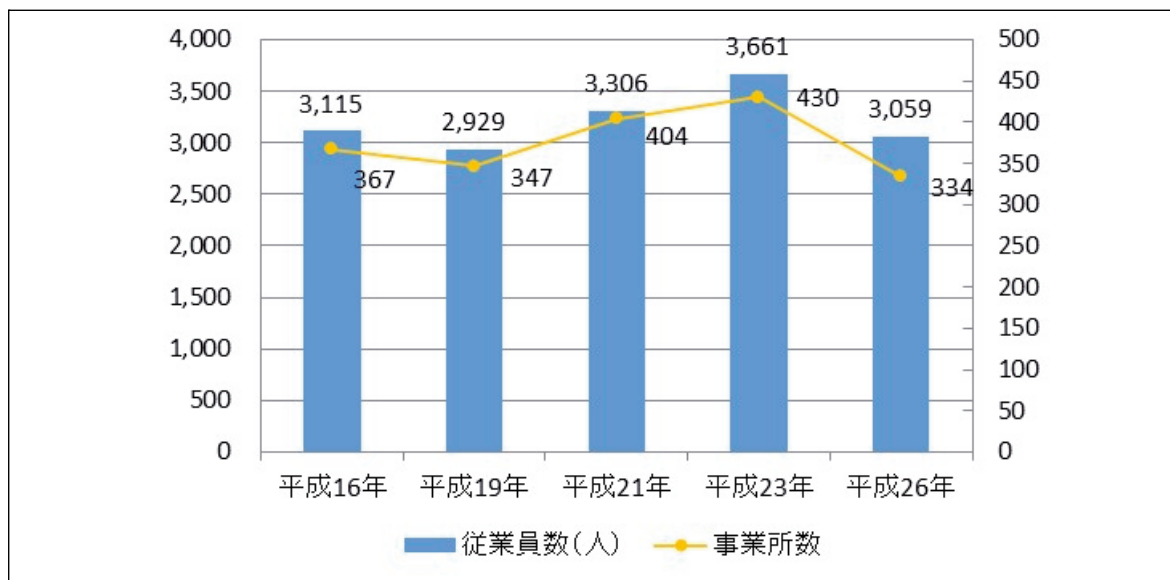
〔資料：工業統計調査（4人以上製造事業所対象）〕

②商 業

本町の商業は、土地区画整理事業などによる近年の人口増加、幹線道路沿道型商業施設や大型ショッピングセンターをはじめとした商業業務施設の立地が進み、事業所数、従業者数、年間販売額ともに増加してきましたが、近年は減少傾向となっています。直近の商業統計調査では、卸売業を含む年間販売額は甲府市に次いで県内2位の販売規模となっています。

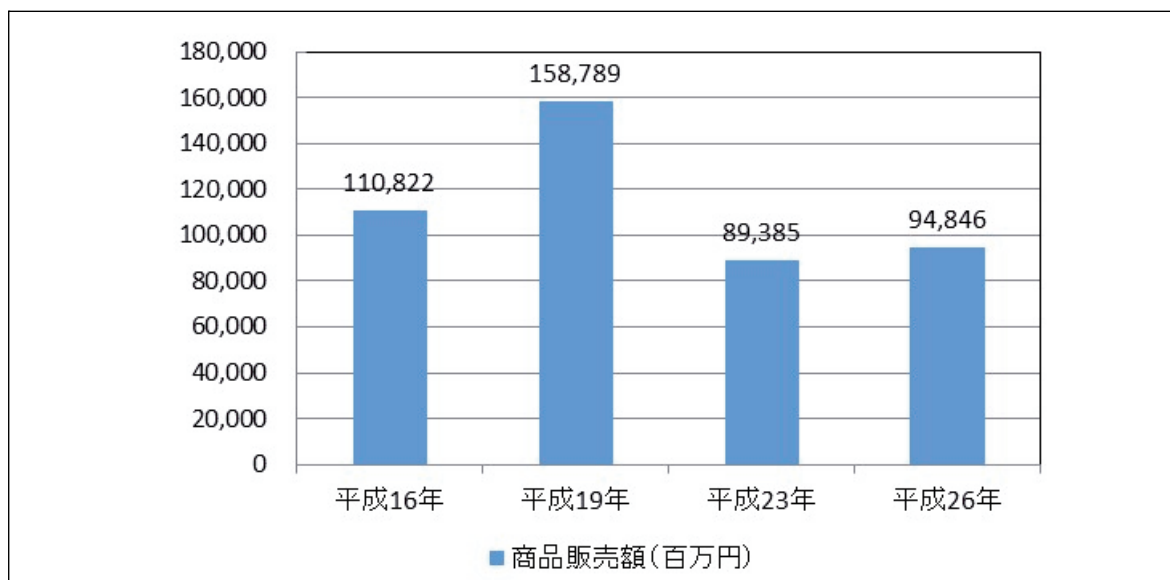
主な商業業務施設は、中央自動車道甲府昭和IC周辺、国道20号や昭和バイパスの沿道、常永土地区画整理事業地などに集積しています。

■事業所数、従業者数の推移



〔資料：商業統計調査、平成21年のみ経済センサス基礎調査〕

■年間販売額の推移



〔資料：商業統計調査〕

③農 業

本町は、かつては県内有数の穀倉地帯といわれ、稲作が主要産業でしたが、現在はナス、キュウリ、イチゴなどの施設野菜及び露地野菜を中心とした都市近郊型農業が展開されています。

平成12年から平成22年までの推移をみると、農家数、経営耕地面積ともに大幅に減少しており、農業就業者の高齢化や後継者不足など、農業をめぐる環境は厳しいものとなっています。

また、平成27年現在農家数は326戸に減少し、都市化の進展に伴い、農地の土地利用の転換を求める声も少なくありません。

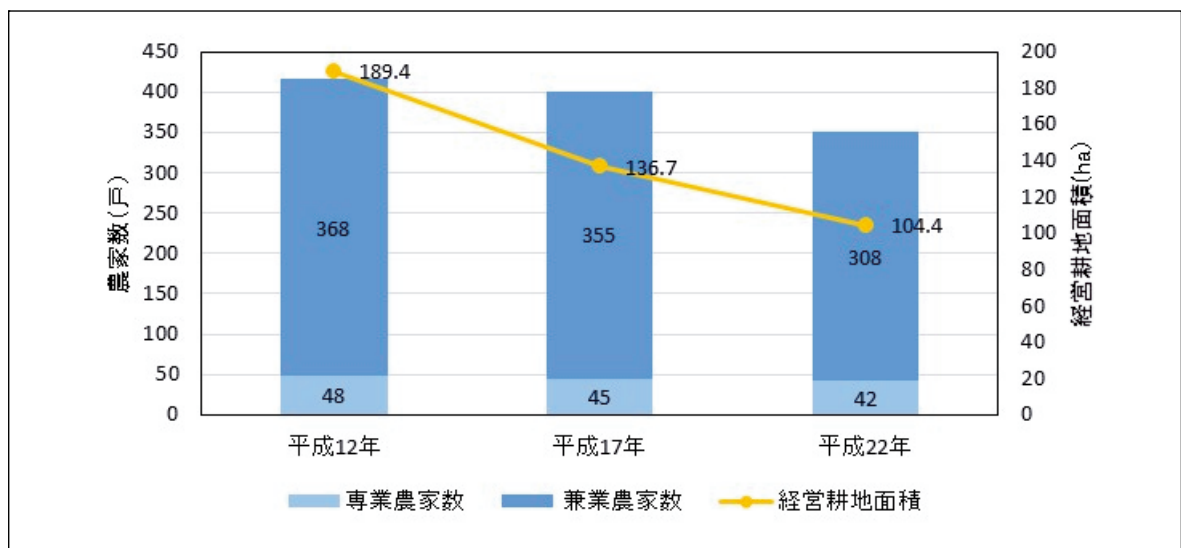
近年は、「いーなとうぶ昭和」等による農産物の直売、イチゴ等の観光農園、住民農園、小学校での農業体験学習など、農業活性化に向けた取り組みが進められています。

■農家数、経営耕地面積の推移

年 次	総 数	農家数(戸)				経営耕地面積 (ha)
		専業農家数	兼業農家数			
			計	第1種兼業	第2種兼業	
平成12年	416	48	368	30	338	189.4
平成17年	400	45	355	38	317	136.7
平成22年	350	42	308	23	285	104.4

〔資料：農業センサス〕

■農家数、経営耕地面積の推移



〔資料：農業センサス〕

④観 光

本町には、特筆すべき観光資源は少ない状況ですが、風土伝承館杉浦醫院、農産物直売所「いーなとうぶ昭和」などが本町の観光スポットとして挙げられます。

一方、本町には、山梨県の玄関口でもある中央自動車道甲府昭和ICがあり、また、平成39年には本町に近接してリニア中央新幹線山梨県駅の設置も予定されていることから、新たな観光振興についても期待されています。

(5)土地利用

本町は、約8割が宅地などの都市的土地利用で、コンパクトな都市構造となっています。また、行政区域全域が甲府都市計画区域に指定され、町の北部から東部、西部は市街化区域で市街地が形成され、中央部は、市街化調整区域で農地と古くからの集落地となっています。

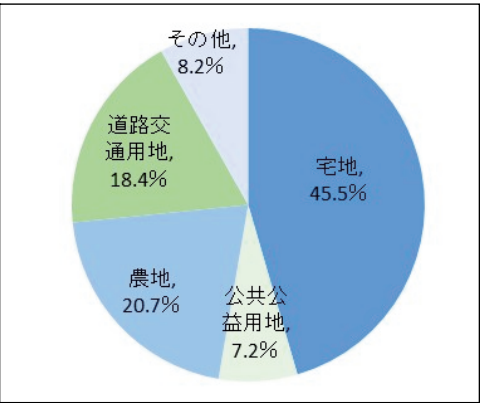
1)土地利用現況

山地や丘陵地の無い本町は、総面積 914.5ha^{*}のうち、約77%が宅地などの都市的土地利用となっており、約23%が農地を中心とした自然的土地利用となっています。

町の北部から東部にかけての地域や西部地域は市街化区域に指定されており、住宅地や工業、商業業務施設を中心に市街地が形成されています。

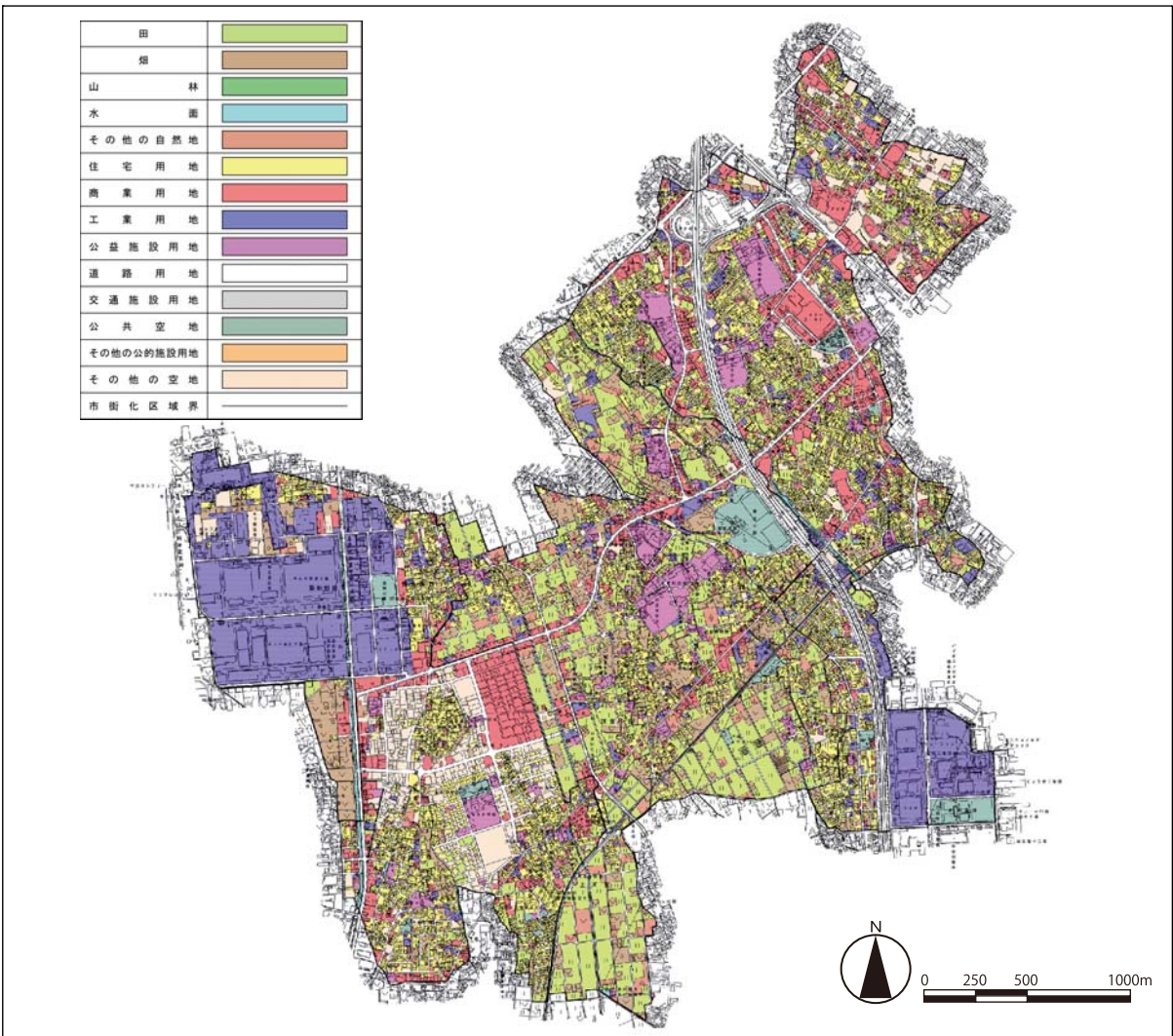
町の中央部は、市街化調整区域となっており、農地の中に古くからの集落地が点在しています。また、町役場周辺には公共施設が集積しています。

■土地利用の構成



〔資料：都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

■昭和町の土地利用現況



〔出典：都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

注）^{*}町域面積は、平成26年10月1日に国土地理院の計測精査により、908haに変更となっていますが、ここでは、平成24年12月の都市計画基礎調査の数値を用いて記述しています。

2)都市計画の指定状況

①都市計画区域と市街化区域

本町は、行政区域全域が甲府都市計画区域に指定され、そのうちの約6割が市街化区域に指定されています。平成9年と比較すると、常永土地区画整理事業等の実施に伴い市街化区域の面積が約120ha 増加しています。

■都市計画区域と市街化区域

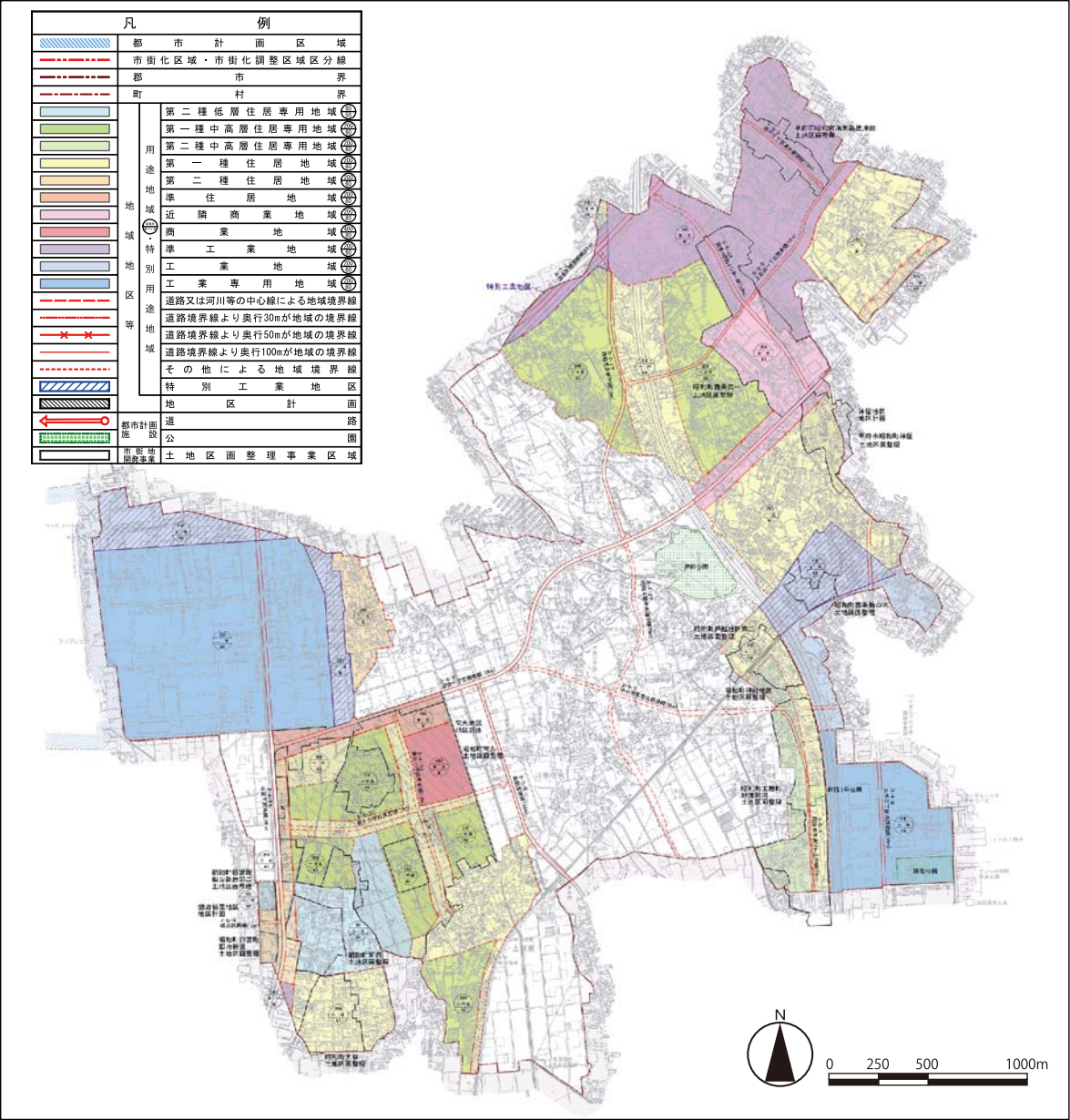
区 域	平成 9 年		平成 24 年		摘 要
	面積(ha)	比率(%)	面積(ha)	比率(%)	
都市計画区域	915	100.0	914.5	100.0	行政区域全域
市街化区域	470	51.4	590.0	64.5	
市街化調整区域	445	48.6	324.5	35.5	

〔資料：平成9年は都市計画年報、平成24年は都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

②用途地域

町北部地域と西部地域の市街化区域全域（51.4ha）に用途地域が指定されています。このうち、住居系用途地域が約32%、工業系用途地域が26%となっています。

■都市計画の指定状況



3)土地利用規制の状況

本町では土地利用の規制に関して、都市計画法に基づく規制以外に、農業振興地域農用地が指定されています。

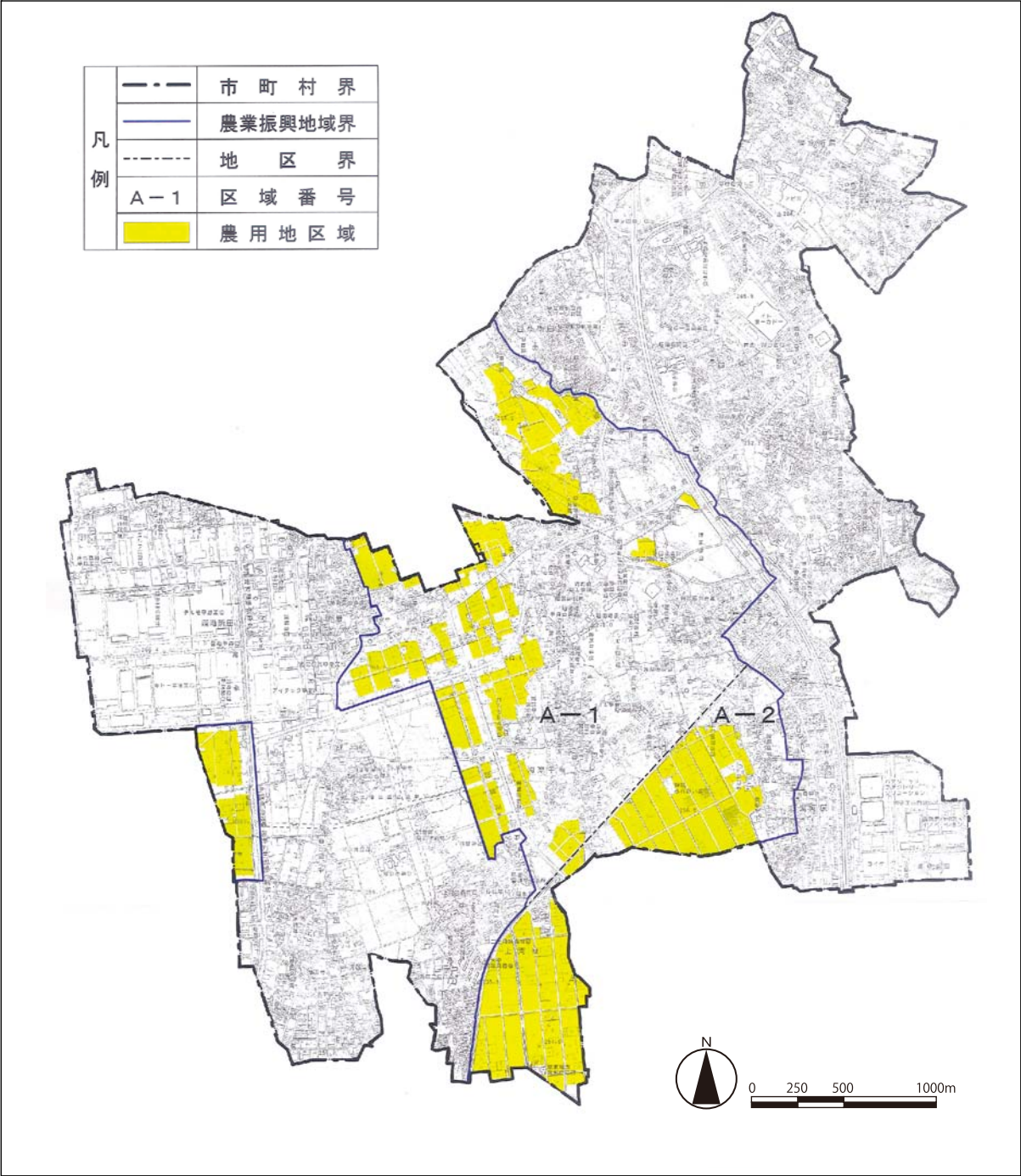
自然公園法に基づく区域や森林法に基づく区域、自然環境保全地域、その他の急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域、宅地造成工事規制区域等の指定はありません。

■土地利用規制の状況

規制内容	面積(ha)	備考
農業振興地域	409.6	
農用地	126.4	

〔出典：都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

■農振農用地区域の指定状況



〔出典：昭和農業振興地域整備計画書（平成27年6月）〕

(6) 道路・交通体系

本町は、中央自動車道（甲府昭和 I C）、国道 20 号をはじめとする広域的な交通アクセス条件に恵まれています。また、町内の幹線道路網の整備が進んでおり、J R 身延線の国母駅と常永駅が立地するなど、交通利便性の高い町です。

また、平成 39 年のリニア中央新幹線の開業を見据え、本町に近接するリニア新駅へアクセスする道路ネットワークの形成など、更なる道路・交通網の充実・強化が必要となっています。

1) 幹線道路網

① 高規格道路

本町の北部には中央自動車道甲府昭和 I C があり、町の南方には近接して新山梨環状道路（南部区間）が東西に通り、広域的な交通アクセス条件に恵まれています。

また、周辺では新山梨環状道路（東部区間）や中部横断自動車道（六郷 I C 以南）の整備が進められており、本町は県内外からの広域的な交通の玄関口、広域交通の要衝としての役割が高まるものと期待されています。

② 主な幹線道路

主要な幹線道路としては、北部を横断する国道 20 号（甲府バイパス）をはじめ、甲府中心部からの放射道路である（主）甲府南アルプス線（アルプス通り）、南北方向の（都）大手二丁目浅原橋線、（主）甲斐中央線、（主）甲府市川三郷線が本町の骨格道路網を形成しています。

その他、町の中央部には（主）甲府市川三郷線（昭和バイパス）をはじめ、（都）昭和玉穂線、（都）押越西条新田線、（都）西条・昭和インター線、（都）上石田一丁目西条線、（都）徳行三丁目清水新居線等の都市計画道路の整備が進められ、本町の幹線道路網が形成されています。

一方、主要地方道を中心とした骨格的な道路網は整備されているものの、道路幅員や歩道などの道路環境整備は充分とはいえない状況となっています。

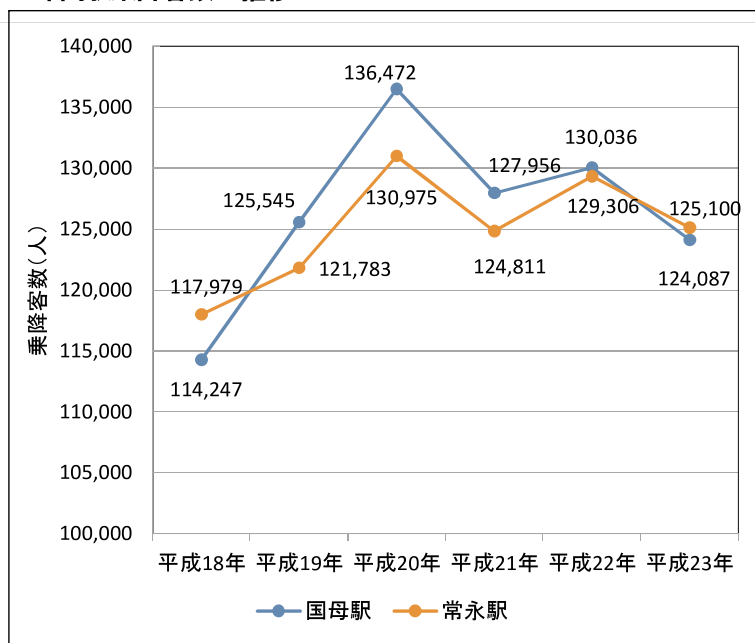
2) 鉄道・バス

① 鉄 道

甲府駅と静岡県富士駅を結ぶ J R 身延線が町を南北に通り、町内には国母駅、常永駅の 2 駅が設置されています。平成 23 年現在、両駅とも年間約 12 万人（日平均 330 人）を超える乗降客数がありますが、利用者は減少傾向にあります。また、利用者の 8 割以上が定期利用の通勤通学者となっています。

駅周辺に関しては、鉄道利用者の利便性の向上を図るため、常永駅ではトイレや駐輪場の整備、国母駅ではトイレの設置、駐車場の貸し出しなどを行っています。

■ 年間駅乗降客数の推移



〔出典：都市計画基礎調査（平成 24 年 12 月）〕

②バス

本町のバス交通は、甲府駅方面と山梨大学医学部附属病院、中央市、市川三郷町、南アルプス市方面を結ぶ路線バスや、JR 常永駅と山梨大学医学部附属病院、イオンモールなどを結ぶコミュニティバスが運行しており、地域の重要な足となっています。しかし、利用者は減少傾向にあることから、赤字バス路線への補助金の交付や自主運営バスの運行などにより、町内のバス路線を維持しています。

また、この他、中央自動車道には中央高速バス（中央道昭和バス停）が運行しています。

今後、高齢化社会の到来やリニア中央新幹線山梨県駅の開設などに対応するためには、バス路線の強化を図っていくことが必要となっています。

■道路・交通網の現況



(7) 基盤施設の整備状況

都市基盤施設としては、土地区画整理事業や工業団地造成事業をはじめ、都市計画道路、公園、河川、上下水道、その他の公共施設などの整備などが進められています。

1) 市街地整備の状況

① 土地区画整理事業等

本町では、計画的な市街地整備を推進するため、次表に示す12地区、合計約148haの土地区画整理事業が実施され、平成29年1月に常永地区の事業が完了し、計画した全ての土地区画整理事業が完了しました。

その他、国母工業団地と釜無工業団地の2つの工業団地造成事業が実施されています。

■ 土地区画整理事業の整備状況

事業地区名	事業主体	事業面積 (ha)	事業期間		整備状況
			開始年度	終了年度	
甲府市昭和町清水新居沖田地区	区画整理組合	6.9	昭和63年	平成2年	完了
甲府市昭和町神屋地区	同 上	6.73	昭和60年	昭和63年	完了
押越地区	同 上	3.06	昭和57年	昭和59年	完了
押越第二地区	同 上	2.5	昭和60年	昭和62年	完了
昭和町玉穂町紙漉阿原地区	同 上	20.35	昭和62年	平成2年	完了
昭和町大林地区	同 上	8.34	昭和58年	昭和61年	完了
昭和町西条第一地区	同 上	23.7	平成5年	平成13年	完了
昭和町西条梅の木地区	同 上	2.7	平成7年	平成12年	完了
昭和町河西地区	同 上	7.2	平成4年	平成12年	完了
昭和町田富町鍛冶新居地区	同 上	1	平成2年	平成9年	完了
昭和町田富町鍛冶新居第二地区	同 上	2	平成4年	平成9年	完了
昭和町常永地区	同 上	63.4	平成19年	平成27年	完了
合 計		147.88			

〔資料：都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

■ 工業団地造成事業

団地名	事業主体	事業面積(ha)	完成年度
国母工業団地	甲府地区開発事業団	95.8	昭和56年度
釜無工業団地	山梨県土地開発公社	65.8	昭和55年度
合 計		161.6	

〔資料：昭和町誌（平成2年3月）〕

② 地区計画等

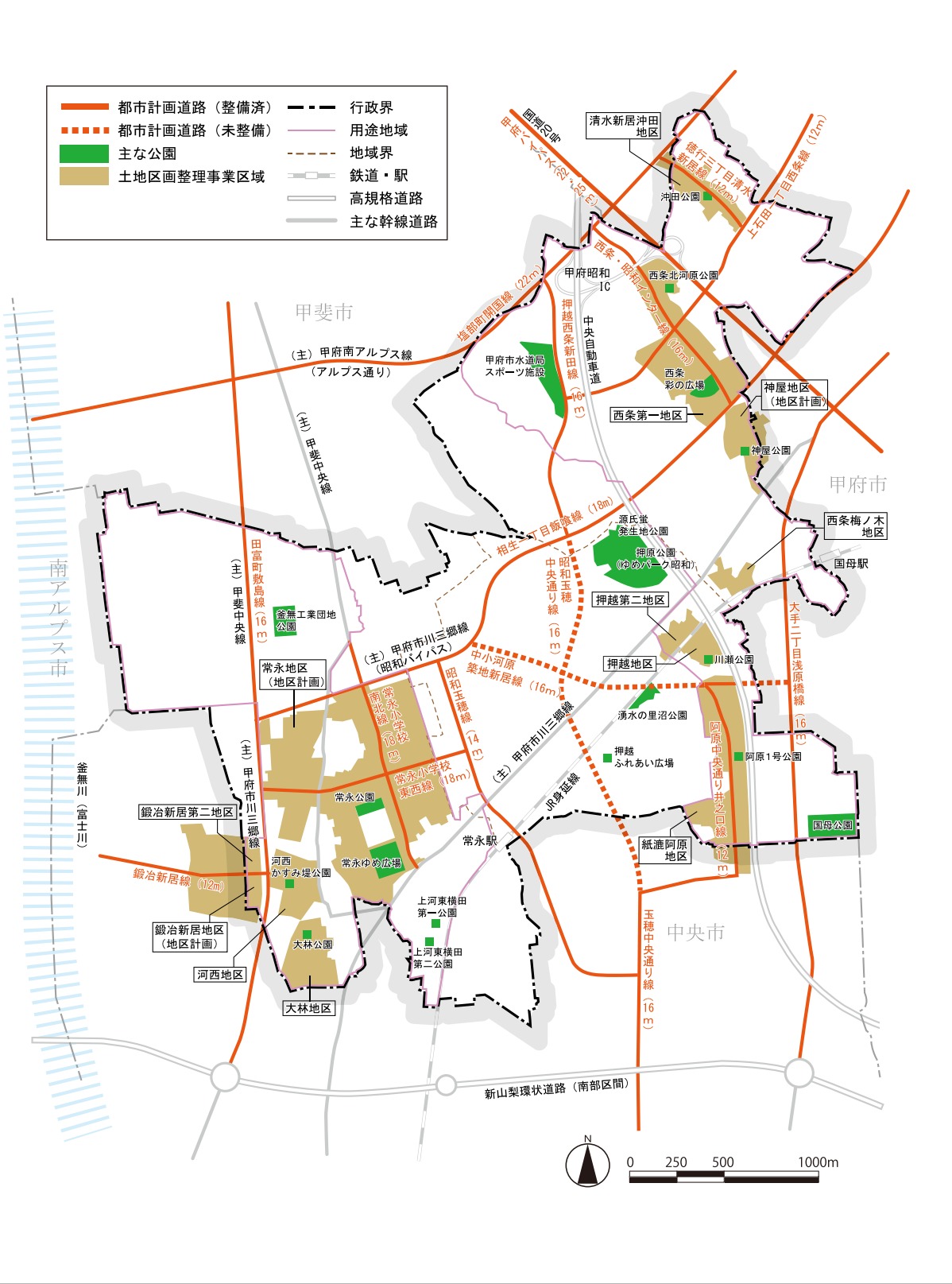
本町では、新たな住宅地の整備に際して、美しいまちなみづくりを推進するため、次の3地区で地区計画を定めています。

■ 地区計画の指定状況

地区名	決定年月日	面積 (ha)	計画・協定の主な内容	摘 要
神屋地区	平成2年1月29日	5.4	用途、敷地面積、高さ、壁面位置、かき、さく、まちづくり協定	土地区画整理事業地区
鍛冶新居地区	平成7年10月5日	3.0	用途、敷地面積、高さ、壁面位置、高さ、形態・意匠、かき、さく	—
常永地区	平成20年3月17日	83.4	用途、敷地面積、高さ、壁面位置、かき、さく、まちづくり協定	土地区画整理事業地区

〔資料：都市計画基礎調査（平成24年12月）〕

■土地区画整理事業及び都市計画道路、主要公園の整備状況



注）＊都市計画道路名称は、赤字で表示しています。

2)都市計画道路

本町の都市計画道路は、合計 16 路線が計画決定されています。平成 27 年 10 月に西条・昭和インター線が全線開通し、平成 27 年現在、昭和玉穂中央通り線など 2 路線を除く 14 路線が整備済みで、整備率は約 85%となっています。

今後、未整備路線の整備促進を図るとともに、新山梨環状道路やリニア中央新幹線新駅へのアクセス強化など、新たな都市づくりを見据えた都市計画道路網の再編整備の検討が必要です。

■都市計画道路の整備状況

路 線 数	計画延長(m)	整備済延長(m)	整備率(%)
16	19,658	16,668	84.8

〔資料：都市計画基礎調査（平成 24 年 12 月）〕

■路線別整備状況

番 号	路 線 名	幅 員	計画延長 (m)	整備済延長 (m)	整備率 (%)
3・3・6	甲府バイパス(国道 20 号)	22,25m	450	450	100
3・3・2	塩部町開国橋線(アルプス通り)	22m	1130	1130	100
3・4・3	相生一丁目飯喰線(昭和バイパス)	18m	3,100	3,100	100
3・4・7	中小河原築地新居線	16m	1,600	200	13
3・4・11	田富町敷島線	16m	2,060	2,060	100
3・4・17	押越西条新田線	16m	1,400	1400	100
3・4・23	西条・昭和インター線	18m	1,210	1,210	100
3・4・27	昭和玉穂中央通り線	16m	1,590	0	0
3・4・30	常永小学校南北線	18m	990	990	100
3・4・31	常永小学校東西線	18m	1,090	1,090	100
3・4・33	大手二丁目浅原橋線	16m	920	920	100
3・5・5	上石田一丁目西条線	12m	1,510	1,510	100
3・5・8	昭和玉穂線	14m	1,110	1,110	100
7・5・1	阿原中央通り井之口線	12m	890	890	100
7・5・3	徳行三丁目清水新居線	12m	510	510	100
7・5・4	鍛冶新居線	12m	98	98	100

〔資料：都市計画基礎調査（平成 24 年 12 月）〕

3)公園等

本町の「都市公園法」に基づく都市公園は、西条・彩の広場、阿原一号公園、押原公園、国母公園、常永ゆめ広場の計5箇所（面積約 15.75ha）で、平成 27 年 10 月現在、いずれも整備済みとなっています。

都市公園以外の公園は、釜無工業団地公園、常永公園、湧水の里沼公園など、町の公園条例に基づいて設置された公園や、開発行為等により整備された公園・緑地など、計 49 箇所の公園・緑地が整備されています。

市街化が進む本町においては、公園・緑地は暮らしにうるおいを創出する大切な空間となっていますが、近年、特に市街地に集中する人口増加傾向を踏まえると、基幹的な都市公園が不足しています。

一方、本町はで、道路工事等に伴う残地などを緑地やポケットパークとして整備しており、協働による花植えや維持・管理に努めています。

■公園・緑地の整備状況

区 分	町全体 （都市計画区域）		市街化区域		市街化調整区域		摘 要
	箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	
都市公園	5	15.75	4	7.86	1	7.89	
その他の公園等	49	6.71	42	5.64	7	1.07	
合 計	54	22.46	46	13.50	8	8.96	

〔資料：昭和町都市整備課資料（平成 29 年 4 月現在）〕

■主な公園一覧

区分	公 園 名	面積(m ²)
都市公園	西条・彩の広場	10,152.4
	阿原1号公園	5,390.1
	押原公園	78,861.4
	国母公園	33,828.0
	常永ゆめ広場	29,242.7
その他の主な公園等	西条北河原公園	1,500.7
	神屋公園	2,019.0
	沖田公園	2,070.0
	押越ふれあい広場	2,463.0
	川瀬公園	1,235.0
	湧水の里沼公園	7,541.5
	釜無工業団地公園	19,218.2
	河西かすみ堤公園	1,415.0
	大林公園	2,510.0
	常永公園	9,291.0
	上河東横田第1公園	1,204.9
	上河東横田第2公園	827.3

〔資料：昭和町都市整備課資料（平成 29 年 4 月現在）〕



・ 押原公園



・ 国母公園

4) 河 川

本町の主な河川としては、鎌田川や東花輪川（山伏川）をはじめ、下表に示す5つの河川があります。このうち渋川、清川排水路（大川）、常永川の3河川については整備済み（一次改修を含む）となっていますが、鎌田川、東花輪川（山伏川）については、早期の改修整備が求められています。

■河川の整備状況

河 川 名	延 長	摘 要
鎌田川	約 2,150m	一次改修済(町外下流部二次改修県実施中)
渋川	約 3,300m	一次改修済
東花輪川(山伏川)	約 2,100m	未整備
清川排水路(大川)	約 600m	整備済み
常永川	約 1,850m	整備済み

〔資料：町都市整備課資料（平成 29 年 11 月現在）〕

5) 供給処理施設

①下水道

本町の下水道については、町域9.08km²うち、釜無川流域関連及び甲府市下水道関連昭和町公共下水道により712haが計画区域に指定され、平成24年度末現在、そのうち443haが供用済みで、整備率は62.2%となっています。

■公共下水道の整備状況

項 目	釜無川流域関連昭和町公共下水道	甲府市下水道関連昭和町公共下水道
計画目標年度	平成 32 年	平成 22 年
計画区域面積	646ha	66ha
処理場	釜無川浄化センター(富士川町長沢)	甲府市南部浄化センター(甲府市大津町)
整備面積	377ha	66ha
整備率	58.3%	100.0%
全 体	計画面積(712ha)、整備面積(443ha)、整備率(62.2%)	

〔資料：昭和町公共下水道概要（平成 24 年度末）〕

②上水道

本町の上水道は、甲府市と甲斐市、中央市の一部と昭和町を給水区域とした甲府市上水道事業により供給されており、平成 27 年9月末の上水道普及率は 94.0%となっています。

また、町内には昭和浄水場（取水能力 6.7 万 m³/日）が整備されています。

本町は地下水が豊富な地域であり、水道水をはじめ工業用水や農業用水として地下水を利用していますが、地下水資源の保護と大量取水による地盤沈下防止のために、過剰取水の抑制などを図る必要があります。

③ごみ処理等

本町のごみは、中央市にある中巨摩地区広域事務組合清掃センターで処理されています。

また、本町では「一般廃棄物処理基本計画」（平成 26 年 3 月）を策定し、ごみの減量化・資源化に向け、生ごみ処理機等の購入補助事業、ごみ減量・リサイクルのPR廃食油回収事業、報奨金制度、エコキャップ運動、ノーレジ袋の推進、国母工業団地における「ゼロエミッション」などの取り組みを行っています。

6) 公共施設等

①行政文化施設

中央地域の押越地区には町役場、公民館、総合会館、図書館、町民体育館などの主要な行政文化施設が集積しており、本町の公共公益施設ゾーンとなっています。

②その他の公共公益施設

本町の主要な公共施設としては、次表に示す施設が挙げられます。

■主な公共施設等

区 分		施 設 名
文化施設		総合会館(老人福祉センター、保健センター、働く婦人の家などが併設) 中央公民館、町立図書館、風土伝承館杉浦醫院(郷土資料館)
教育施設	小学校	西条小学校、押原小学校、常永小学校
	中学校	押原中学校
	高 校	甲府昭和高等学校
こども園・保育園		押原こども園、ふるるこども園、昭和保育園、常永保育園、上河東保育園、第二上河東保育園、富士桜学園、げんき夢保育園
児童センター・児童館		ゆめてらす、西条児童館、押原児童館、常永児童館
福祉施設		町立老人福祉センター、昭寿荘(特別養護老人ホーム)
スポーツ・レクリエーション施設		総合体育館、昭和町立温水プール 釜無工業団地公園グラウンド・テニスコート、常永公園テニスコート、常永公園ゲートボール場、押越ふれあい広場ゲートボール場、国母公園多目的運動広場、国母公園テニスコート、甲府市上下水道局スポーツ施設グラウンド・テニスコート、押原公園グラウンド

〔資料：都市計画基礎調査（平成24年12月）、昭和町福祉課資料〕

7) 指定避難所等

これまで、釜無川は台風などの豪雨時に増水し、洪水をもたらしてきた歴史があります。また、本町は山梨県の多くの地域とともに東海地震の地震防災対策強化地域に指定されています。

本町では、「昭和町地域防災計画」（平成26年12月改訂）や「昭和町防災マニュアル」、「昭和町洪水ハザードマップ」（平成24年3月改訂）を作成し、総合的な防災対策を推進しています。

また、常備消防である甲府地区消防本部と消防団による非常備消防による消防体制により、広域的連携を図った緊急事態への対応体制に取り組むとともに、町内医療施設や山梨大学医学部附属病院などの近隣の医療機関、中巨摩医師会などとの連携による地域医療体制の強化に努めています。

■指定避難所等

区 分	指定施設
集合地 ^{*1}	公園や広場など計24箇所を指定
避難地 ^{*2}	小・中学校や高校の7箇所を指定
避難所 ^{*3}	西条小学校体育館、常永小学校体育館、押原小学校体育館、甲府昭和高校体育館、地域交流センターの計5箇所を指定
福祉避難所 ^{*4}	総合会館
防災公園(広域避難地) ^{*5}	押原公園(総合公園7.9ha)を中心とした周辺一帯17.3ha

〔資料：昭和町地域防災計画（平成26年12月改訂）〕

注) ^{*1} 集合地：避難のために一時的に集合する場所

^{*2} 避難地：集合地に集まった後、区ごとに避難する場所

^{*3} 避難所：長期的に被災者を収容する場所

^{*4} 福祉避難所：高齢者等の被災者を収容する場所

^{*5} 防災公園：本町の核となる防災機能を有する広域的な避難場所

(8) 主な地域資源

本町の特徴的な地域資源としては、自然的資源や歴史・文化的資源などの暮らしに身近な様々な資源がありますが、今後のまちづくりへの効果的な活用が望まれます。

1) 自然的資源

本町は、山地や大規模な河川はありませんが、豊富な水資源とうるおいある水辺環境、社寺林や屋敷林、田園の緑、山なみを望む優れた眺望景観、ホタルの生息地など、身近な自然的資源が点在しており、今後のまちづくりへの効果的な活用が望まれます。

■主な自然的資源

区 分	主な自然的資源
河川・水路	・東花輪川（山伏川）の清流と桜並木、アジサイ ・鎌田川（鎌田川河川公園）の水辺空間 ・常永川、清川排水路（大川）、渋川などの水辺空間、農業用水路 など
水資源	・釜無川の地下水を水源とする 11 箇所の源泉（西条地区） ・温泉（甲府盆地深層熱水温泉帯に属する）
農 地	・中央地域の一団の農地、観光農園、体験農園 など
特徴的な景観	・富士山、南アルプス、ハケ岳などの山なみの眺望景観 ・中央地域に広がる田園景観、身延線のローカル鉄道景観
特徴的な樹木・花	・花の名所（山伏川の桜並木やアジサイ、今川沿いのキシウブ、常永川のコスモス街道） ・社叢林（妙福寺のクロマツ、本妙寺・妙源寺のイチョウなど） ・集落地の大木・古木、屋敷林 など
貴重生物の生息環境	・ひばりの生息（紙漉阿原や上河東など） ・鎌田川流域（かつてゲンジボタル発生地として天然記念物に指定）

〔資料：昭和町ホームページほか〕

2) 歴史・文化的資源

本町は、釜無川の氾濫で多くの歴史的遺産が流出しましたが、往時の歴史をしのぶ埋蔵文化財などの文化財、古道、水に関わる歴史・文化、道祖神、伝統行事や祭りなど、身近な歴史・文化的資源が点在しており、景観・観光・交流まちづくりに効果的に活かしていくことが望まれます。

■主な歴史・文化的資源

区 分	主な歴史・文化的資源
遺 跡	・堤防 霞堤 ・その他（義清神社内遺跡など計 41 箇所の埋蔵文化財包蔵地）
社 寺	・寺院（宗教法人登録されている寺院：25 寺） ・神社（宗教法人登録されている神社：10 社）
その他の歴史・文化的資源	・歴史・文化の拠点となる風土伝承館杉浦醫院 ・古道（旧鎌倉街道（河東中島～紙漉河原）／みのぶ道（河内路、駿州往還）） ・古民家などの歴史的建造物（杉浦醫院／石原家／中所家／磯部家／保坂家（古民家ギャラリーエアリー）） ・史跡／道祖神／沼天神／伝統行事／祭り など

〔資料：昭和町いきいきガイドブックほか〕

3 まちづくりへの町民意向

(1) まちづくり住民ワークショップ

都市計画マスタープランの策定にあたっては、「住民ワークショップ」を開催し、昭和町全体の将来イメージを共通認識とし、多様な地域まちづくりに関する提案が行われました*。

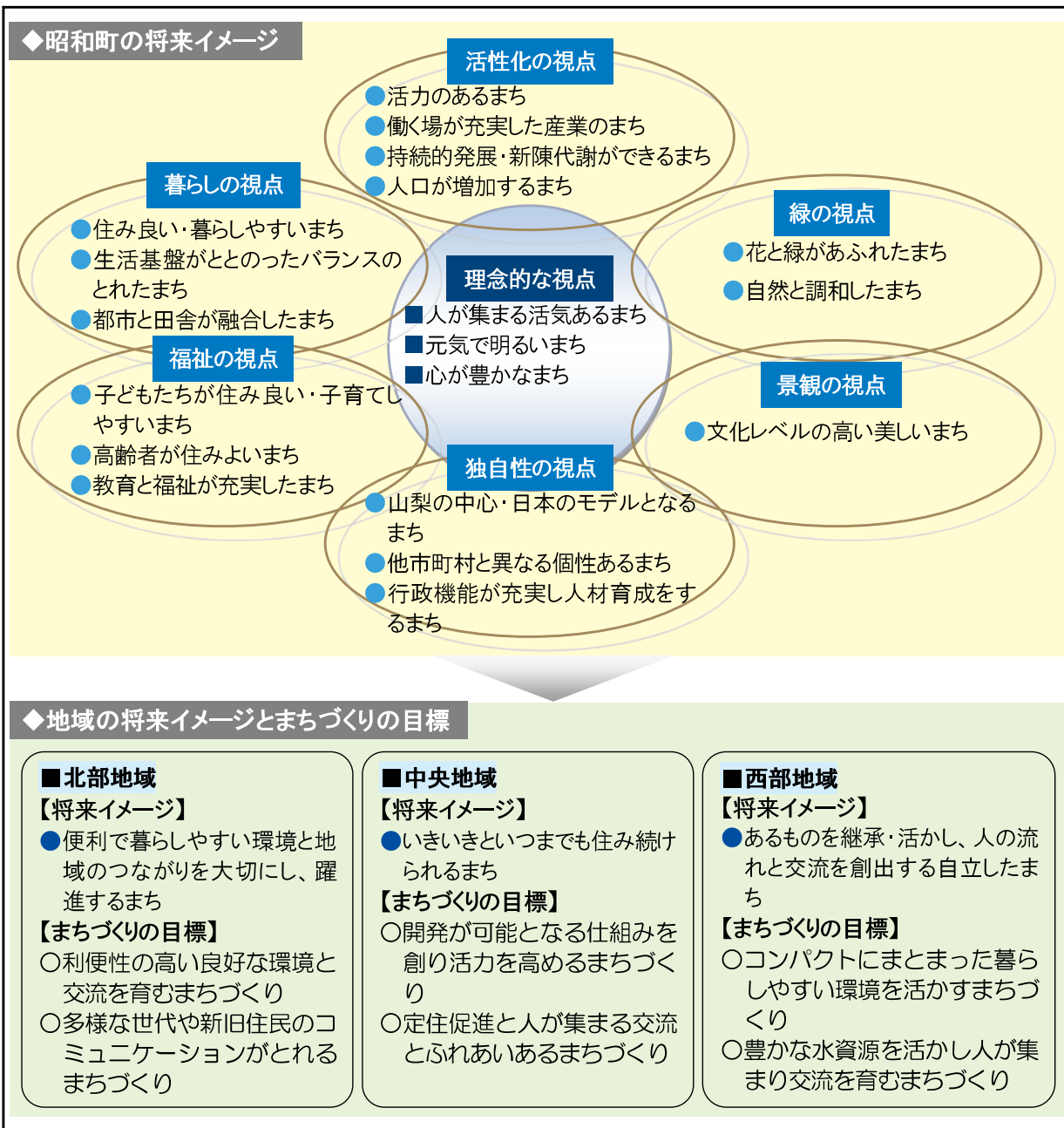
■住民ワークショップの概要

- 開催期間：平成 28 年5月～平成 28 年 10 月 計5回(提言書提出含む)
- 開催概要：ワークショップ手法による昭和町のまちづくりに向けた協議
- 目 的：「まちづくり住民プラン」をまとめ町に提言書を提出
- 参 加 者：各地区、商工会、工業団地、大型ショッピングセンター代表など
- そ の 他：各回住民ワークショップニュースを発行、ホームページで公開



・住民ワークショップの風景

■主な提案内容



注) * 「住民ワークショップ」の経過等については、参考資料をご参照下さい。

(2) アンケート調査にみる町民等の意向

「昭和町第6次総合計画」、「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」の策定に際して実施した住民アンケート調査では、昭和町のまちづくりに関して次のような意向を示しています。

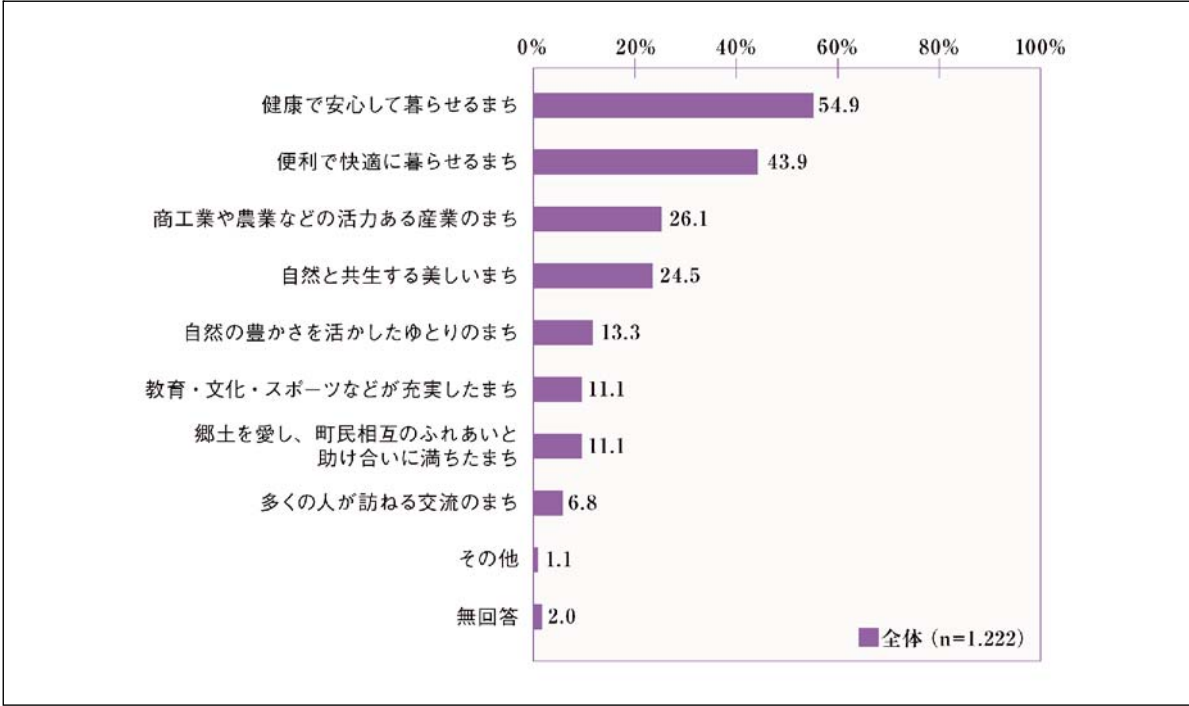
1) 昭和町第6次総合計画 町民まちづくり意向調査

- 調査対象：昭和町全域、町内在住の20歳以上の町民2,000人(票)を無作為抽出
- 調査期間：平成26年9月～10月(投函期間)
- 調査方法：郵送による配布、回収
- 回収数、回収率：1,237人(票)、61.9%

■ 主な調査結果

【町の将来像について】

町の将来像は、「健康で安心して暮らせるまち」が最も多く、次いで「便利で快適に暮らせるまち」、「商工業や農業などの活力ある産業のまち」、「自然と共生する美しいまち」の順となっています。



〔出典：昭和町第6次総合計画策定基礎調査（平成28年3月）〕

2) 昭和町都市計画マスタープラン・緑の基本計画の策定に伴うアンケート調査

① 住民アンケート調査

- 調査対象: 昭和町全域、町内在住の満 18 歳以上 79 歳以下の町民 1,550 人(票)を無作為抽出
- 調査期間: 平成 28 年5月 18 日～6月1日(投函期間)
- 調査方法: 郵送による配布、回収
- 回収数、回収率: 550 人(票)、35.5%

■ 全体調査結果の概要

◆ 今後のまちづくり

● まちづくりで重視する施策

- 「少子高齢化社会に対応し、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進する」が 24%と突出し、福祉のまちづくりを第一に、災害に強い安全なまちづくり、生活基盤や住環境の整備など、安心して暮らせる活気あるまちづくりを重視する傾向が伺えます。

● 分野別に重視すべき施策

- ① 土地利用については、空き家・空き地対策などの住環境の改善や遊休農地・耕作放棄地の有効活用、JR身延線駅周辺整備などの計画的な土地利用の推進、また、市街化調整区域の土地利用については、一定のルールに基づく段階的な整備などを優先する意見が多くなっています。
- ② 道路・交通対策は、公共交通機関の充実や交差点の改善・交通渋滞の緩和、自転車専用通行帯の確保、身近な生活道路の改善などを優先する意見が多くなっています。
- ③ 町の活性化は、町の特色を活かした「道の駅」等の整備、リニア中央新幹線山梨県駅の開業を見据えた高次都市機能の誘致、工業団地の環境整備、優良企業の誘致などによる工業振興の推進などを優先する意見が多くなっています。
- ④ 水と緑のまちづくりは、ホタルやヒバリなどの貴重な生き物の生息環境の保全・再生、道路・公園・河川・公共施設等の緑化の推進、住民が身近に利用できる小さな公園の整備などを優先する意見が多くなっています。
- ⑤ 景観まちづくりは、公共施設などの緑化の推進、一定のルールに基づくまちなみ景観の向上、良好な水辺景観の保全と魅力の向上などを優先する意見が多くなっています。
- ⑥ 住まいや住環境などの生活基盤は、生活道路の改善整備、通学路などの交通安全対策や地域コミュニティ施設の充実、身近な公園やポケットパークの整備などを優先する意見が多くなっています。
- ⑦ 環境に配慮したまちづくりは、ごみの減量や資源ごみの分別収集など資源リサイクルの推進、環境に対する意識やマナーの向上や、省エネルギー対策、自然エネルギーの導入などを優先する意見が多くなっています。
- ⑧ 福祉については、官民一体となった老人ホームや介護支援センターなどの高齢者福祉施設の充実、保育所等の子育て支援施設の整備・充実や、介護医療サービスの充実などを優先する意見が多くなっています。
- ⑨ 防災・防犯は、災害時の指定避難所の防災機能の充実、各種医療機関と連携した災害時の救急医療体制の充実や、危険なブロック塀や狭い道路、行き止まり道路の改善などを優先する意見が多くなっています。

● まちづくりへの参加

- まちづくりへの参加意向は、内容によっては参加するが約 40%と高く、何らかの参加意向は7割強と高い傾向を示しています。
- まちづくりにあたっての行政の取り組み体制は、情報公開やPRの充実と住民意向の反映とともに、まちづくり説明会などの機会・場の充実、住民の自主的活動に対する支援などを望んでいます。

②企業アンケート調査・町外からの通勤者アンケート調査

- 調査対象:昭和町商工会に加入する企業 50 社(票)
企業アンケート調査を依頼した企業に勤務し、町外から通勤している従業員 100 人(票)
- 調査期間:平成 28 年6月1日～6月 15 日(投函期間)
- 調査方法:郵送による配布、回収
- 回収数、回収率:企業アンケート調査 33 票、66.0%/町外からの通勤者アンケート調査 62 票、62.0%

■企業アンケート調査結果の概要

◆今後のまちづくり

●重視すべきまちづくりの施策

- 「工業・商業・農業など、本町の持ち味を生かした産業の振興でまちの活力向上を図る」が約 26%と突出し、活力あるまちを第一に、幹線道路網の整備、公共交通の充実など、交通の利便性を高める、安全で災害に強いまちづくりなど、交通便利性がよく、安心して企業活動を行える活気あるまちづくりを重視する傾向が伺えます。

●町の活性化

- 「工業団地の環境整備、優良企業の誘致などによる工業振興」と「商業サービス施設や業務施設の立地促進」が約 2 割と高く、次に「リニア中央新幹線山梨県駅の開業を見据えた高次都市機能の誘致などを優先する」など、商業、工業の振興や都市機能の向上を重視しています。

●水と緑のまちづくり

- 「鎌田川のホタルやひばりなどの貴重な生き物の生息環境の保全・再生」が約 2 割と突出して高く、次に「鎌田川、東花輪川（山伏川）などの河川や用水路の水辺環境の保全」、「散策路（散策ルート）の整備」など、自然環境や水辺環境の保全を望んでいます。

●企業のまちづくりへの参加(社会貢献活動)

- 現在取り組んでいる社会貢献活動は、美化・清掃・緑化などの活動、防災・防犯などの活動、リサイクル活動・省エネルギー活動などの回答が多くなっています。
- 今後力を入れたい社会貢献活動は、美化・清掃・緑化などの活動、リサイクル活動・省エネルギー活動、社員のボランティア活動の奨励、防災・防犯などの活動などの回答が多くなっています。
- 行政に望む企業の社会貢献に対する支援策は、まちづくりに関する説明会、勉強会、意見交換会など企業が参加する場や機会を増やす、町の広報やお知らせなどで、企業のまちづくり活動に関する情報公開や PR を充実する、企業の自主的なまちづくり活動に対して支援する（税制の優遇措置等）などの回答が多くなっています。

■町外からの通勤者アンケート調査結果の概要

◆今後のまちづくり

●重視すべきまちづくりの施策

- 「幹線道路網の整備、公共交通の充実など、交通の利便性を高める」が約 2 割と高く、道路交通の整ったまちづくりを第一に、災害に強い安全なまちづくり、活力あるまち、福祉のまちづくりなど、便利で安心して就業できる活気あるまちづくりを重視する傾向が伺えます。

●町の活性化

- リニア中央新幹線山梨県駅の開業を見据えた高次都市機能の誘致が約 2 割と高く、それとともに商業サービス施設や業務施設の立地促進、工業団地の環境整備、優良企業の誘致などによる発展・活性化を望んでいます。

●水と緑のまちづくり

- 道路・公園・河川・公共施設等の緑化の推進が約 2 割と高く、貴重な生き物の生息環境の保全・再生や、町や地域のシンボルとなる大規模な公園の整備などの施策を重視しています。

●まちづくりへの参加

- まちづくりへの参加意向は、内容によっては参加するが約 4 割と高く、何らかの参加意向は約 7 割と高い傾向を示しています。
- まちづくりにあたっての行政の取り組み体制は、情報公開や PR の充実と住民意向の反映とともに、住民の自主的活動に対する支援、まちづくり条例など自主的なまちづくりの仕組みを整えるなどを望んでいます。

4 まちづくりに向けた課題

「本町の現況特性」や「まちづくりに関する町民等の意向」、「本町をとりまく社会的動向」、昭和町第6次総合計画における「今後のまちづくりに向けた課題」を踏まえ、次のような主要課題を整理しました。

■まちづくりに向けた課題の整理

【本町の現況特性】

《自然環境》

- 全域が釜無川氾濫原の扇状地で平坦地形
- 地下水、湧水、温泉の湧出など水資源が豊富

《人口・世帯等の動向》

- 人口・世帯数は増加傾向、一方、核家族化が進行
- 高齢化率は約20%と低いが少子高齢化が進行
- 市街化区域に人口が集中、人口の二極化が顕著
- 流入超過で昼夜間人口比率は県内で最も高い

《産業》

- 第3次産業が中心、商業・工業ともに伸び悩み
- 県内最大規模の2つの工業団地が立地
- 幹線道路沿道や土地区画整理事業地区などに大規模商業施設等の主要商業施設が集積
- 都市近郊型農業が展開、農家・農地とも大幅な減少

《土地利用》

- 約8割が都市的土地利用でコンパクトな都市構造
- 北部から東部、西部の市街化区域に市街地が形成
- 市街化調整区域の中央部は古くからの集落地

《道路・交通体系》

- 広域的な交通条件に恵まれた交通利便性の高いまち
- リニア中央新幹線駅へのアクセス強化が期待
- JR身延線の2つの駅が立地、利用者は減少傾向
- バス利用者も減少傾向、バス路線の維持が課題

《主な基盤施設の整備状況》

- 12地区約148haの土地区画整理事業が完了、2つの工業団地造成事業を実施
- 3つの地区で地区計画を推進
- 都市計画道路は計16路線、整備率約85%（平成27年10月現在）
- 都市公園は5箇所整備済、基幹的な都市公園が不足
- 鎌田川、東花輪川（山伏川）は未整備区間がある
- 下水道整備率は約62%、上水道普及率は94%
- 中央地域に主要な行政文化施設が集積
- 洪水の歴史、東海地震防災対策強化地域に指定
- 主な地域資源はホテルの生息環境、霞堤、古道、杉浦醫院等の歴史的建造物、桜並木等の花の名所 など

【山梨県における位置づけ】

- 拠点エリアの「都市機能補完地区」（甲府昭和IC周辺、常永地区）の位置づけ〔山梨県都市計画マスタープラン（平成23年3月）〕
- リニア新駅近郊における定住、産業、エネルギー、景観、観光交流の取り組み〔リニア環境未来都市整備方針（平成29年3月）〕 など

【本町をとりまく社会的動向】

- 地方分権の進展と地域社会の役割
- 人口減少社会、少子高齢化社会の進行
- 都市再生・コンパクトなまちづくり
- 高速交通時代の到来
- 安心・安全意識の高まり
- 地球温暖化防止に向けた取り組み
- 社会経済環境の変化、ライフスタイルの多様化

【まちづくりに関する主な町民意向】

- 昭和町住民ワークショップ
 - ・「人が集まる活気あるまち」、「元気で明るいまち」、「心が豊かなまち」が理想的な将来像
- 第6次総合計画町民まちづくり意向調査
 - ・町の将来像は、「健康で安心して暮らせるまち」、「便利で快適に暮らせるまち」等を望む
- 昭和町都市計画マスタープラン・緑の基本計画の策定に伴う住民アンケート調査
 - ・「少子高齢化社会に対応し、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進する」が重視するまちづくり施策
 - ・土地利用は、空き家・空き地対策などの住環境の改善や遊休農地・耕作放棄地の有効活用
 - ・道路・交通対策は、公共交通機関の充実や交差点の改善・交通渋滞の緩和
 - ・町の活性化は、町の特徴を活かした「道の駅」等の整備、リニア中央新幹線山梨県駅の開業を見据えた高次都市機能の誘致 など

【今後のまちづくりに向けた課題】

※昭和町第6次総合計画よりまちづくり関連を抜粋

- 少子化社会に対応した子育て環境の充実
- 高齢者人口の増加などへの対応
- 町内の均衡した発展を目指した都市整備
- 人口増加が続く中での地域コミュニティづくり
- 産業の活性化と雇用機会の確保
- 安心できる生活環境や自然環境の保全
- より利便性の高い公共施設の充実と公共交通整備の検討

【まちづくりに向けた主要課題】

- ①リニア中央新幹線山梨県駅の整備を見据えた都市づくりを進めること
- ②本町の中長期的な発展の方向性を見定めた都市機能集約型の都市づくりと、地域特性に応じた計画的な土地利用を進めること
- ③広域的かつ地域間の交流と連携を促す体系的な道路交通ネットワークや公共交通の強化を図ること
- ④地域産業の振興や交流の活性化など、都市全体の活力を維持し高めていくこと
- ⑤地域資源をまちづくりに効果的に活かすとともに、水と緑のうるおいを個性として活かすまちなみづくりを進めること
- ⑥水害や地震など災害に強く、安全・安心に暮らすことのできるまちづくりを進めること
- ⑦誰もが地域に住み続けられる安心・快適な生活環境や福祉環境の充実を図ること

【まちづくりに向けた主要課題】

【都市構造からみた課題】

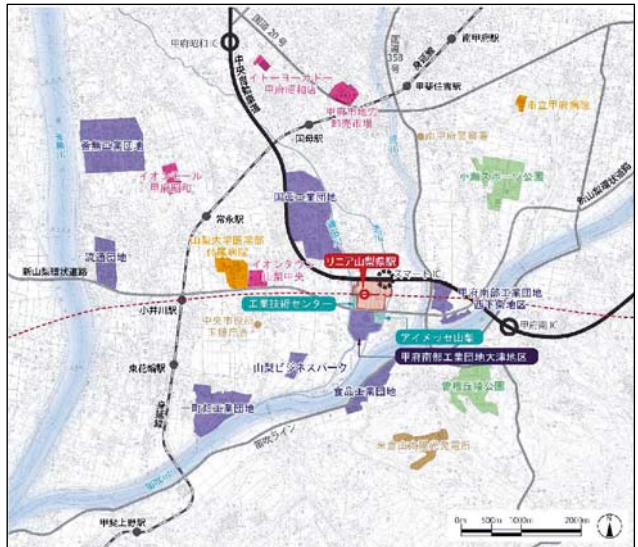
①リニア中央新幹線山梨県駅の整備を見据えた都市づくりを進めること

リニア中央新幹線については、平成39年の開業をめざして整備が進められており、山梨県においても「山梨県リニア活用基本構想」（平成25年3月）や「リニア環境未来都市整備方針」（平成29年3月）を策定し、将来展望や地域整備の方向性を示しています。

リニア中央新幹線山梨県駅は、本町に近接して整備が予定されていることから、県が示す「駅近郊の目指すべき姿と取り組み」などを踏まえ、整備に伴う負の影響の軽減や整備効果を効果的に受け止めたまちづくりへの対応が求められています。

- 都市機能集約型都市構造を基本とし、乱開発の防止と都市の拡散の抑制、計画的な土地利用の誘導
- 都市機能補完地区の機能強化と魅力づくり（甲府昭和IC周辺、常永地区）、中心的商業業務地としての機能強化（甲府昭和IC周辺）
- リニア中央新幹線山梨県駅とネットワークを形成する基幹道路の整備、バスなどの公共交通利便性の強化
- JR身延線駅（国母駅、常永駅）の交通結節機能とリニア中央新幹線山梨県駅とのアクセス強化
- ポテンシャルを活かした地域の活性化（産業振興、定住促進、観光活性化など）

■リニア駅周辺及び近郊図



〔出典：リニア環境未来都市整備方針（平成29年3月）〕

【土地利用からみた課題】

②本町の中長期的な発展の方向性を見定めた都市機能集約型の都市づくりと、地域特性に応じた計画的な土地利用を進めること

本町の土地利用は、約8割が都市的土地利用で、市街化が進む北部・東部・西部地域（市街化区域）と、農業集落地域である中央地域（市街化調整区域）からなるコンパクトな都市構造となっています。

市街化区域では土地区画整理事業などによる基盤整備が進められていますが、町の中央に広がる市街化調整区域においては、古くから形成された既存集落地の基盤整備の遅れや、虫食いの宅地化の進行、市街化の進展に伴う農地の減少や耕作放棄地の増加といった土地利用上の問題が顕在化しています。

町全体からみると、人口が集中する市街化区域と減少する市街化調整区域の人口の二極化への対応や都市基盤整備の不均衡の解消、公共施設が集積する市街化調整区域のシビックゾーンとしてのまちづくりを進めることが求められています。さらに、都市化の進展に伴い、優良農地を含む土地利用の転換を求める声も少なくありません。

そのため、市街化調整区域については、優良農地は計画的に保全し無秩序な宅地化を抑制するとともに、居住環境の向上と地域コミュニティの維持などに弾力的に対応し、集落地における計画的な居住区の形成など地域特性に応じた適切な土地利用誘導を検討することが必要です。

また、将来的に、新山梨環状道路の東部・北部区間の開通やリニア中央新幹線山梨県駅の開業などに伴い、開発圧力が高まることも予想されますが、中長期的な町の発展の方向性を見据え、地域の特性に応じた計画的な土地利用を進めていくことが必要です。

【道路・交通からみた課題】

③広域のかつ地域間の交流と連携を促す体系的な道路交通ネットワークや公共交通の強化を図ること

本町は、中央自動車道甲府昭和 IC や JR 身延線の2駅が位置し、新山梨環状道路の田富西ランプに近接しているなど、広域的な交通アクセス条件に恵まれています。

また、国道 20 号（甲府バイパス）、（主）甲斐中央線、（主）甲府市川三郷線をはじめとした幹線道路や都市計画道路の整備が進められ、周辺都市のどこへでも容易にアクセスできる交通利便性の高い都市です。

一方、幹線道路網の整備は進んでいるものの、道路幅員や歩道整備等の交通環境の改善、幹線道路の交通渋滞の解消が求められています。また、高齢社会の到来やリニア中央新幹線山梨県駅へのアクセスなどから、鉄道やバスなど公共交通の一層の充実が求められています。

また、町中央部の集落地域（市街化調整区域）の都市計画道路の整備や生活道路の改善など市街化区域との都市基盤格差の是正、昭和玉穂中央通り線の整備や機能的な道路ネットワークの形成が課題となっています。

これらの点を踏まえ、周辺市町村や市内各地域の連携強化と交流の促進、交通利便性の一層の向上を図るため、リニア中央新幹線山梨県駅の開業を見据えた体系的な道路・交通ネットワークの強化をはじめ、JR 身延線駅の交通結節機能の強化やバス路線などの公共交通の強化が必要です。

【都市の活力からみた課題】

④地域産業の振興や交流の活性化など、都市全体の活力を維持し、高めていくこと

本町は、恵まれた交通立地条件などから県内有数の商工業の集積地であり、農業も施設野菜や露地野菜を中心とした都市近郊型農業が行われています。一方、近年は基幹産業である商工業が伸び悩み、農業も農業従事者の高齢化、後継者不足などにより、地域産業の活力の低下が懸念されています。

本町が今後とも活力あるまちとして発展していくためには、多様化するニーズに呼応しつつ、ここで働き、住み、訪れてみたいと思えるような、都市全体の活力と魅力を高めていくことが必要です。

そのため、既存工業団地への企業誘致や新たな産業用地の確保、商業業務機能の立地促進と大規模店舗と共存する地域商業の振興、都市近郊型農業の維持と地域交流型農業の推進、良質な定住環境の供給、観光振興など、地域活性化の取り組みが求められています。

【自然や景観からみた課題】

⑤地域資源をまちづくりに効果的に活かすとともに、水と緑のうるおいを個性として活かすまちなみづくりを進めること

本町は、平坦な地形で、山林などの自然はありませんが、恵まれた水資源（地下水、温泉）や肥沃な土壌、河川や水路などの水辺空間、社寺林や屋敷林、桜並木などの緑、中央地域に広がる田園風景、富士山や南アルプス、ハケ岳等を望む眺望景観、ヒバリやホタルなどの生息環境など、身近な自然資源が多くみられます。

また、身近な公園・緑地は生活にうるおいを与える大切な空間となっており、その他、往時の歴史をしのぶ文化財や古道、道祖神、伝統行事や祭りなど、身近な歴史資源も有形無形に息づいています。

町民の憩い・レクリエーションの場となる基幹的な公園・緑地の充実とともに、町民のふるさと意識や愛着を培い、人々を惹きつける重要な要素となっている地域資源については、その価値を見直し積極的に維持・保全を図り、まちづくりに効果的に活用していくことが望まれます。

また、都市化が進む本町においては、水辺や緑のうるおいをまちの個性として守り・育むとともに、地域特性に即した良好なまちなみづくりを進める必要があります。

【防災からみた課題】**⑥水害や地震など災害に強く、安全・安心に暮らすことのできるまちづくりを進めること**

本町は、釜無川氾濫原という立地条件から、古くから水害に悩まされてきた歴史があり、近年の市街化の進行と農地の減少に伴い、水害に対するリスクも高まっています。また、山梨県の多くの地域とともに東海地震の地震防災対策強化地域に指定されています。

東日本大震災以降、人々の安全・安心への意識は高まり、各種住民アンケート調査や「住民ワークショップ」においても、多くの町民が自然災害や防災対策について高い関心を示しています。

町では「昭和町地域防災計画」や「昭和町防災マニュアル」、「昭和町洪水ハザードマップ」を作成し、総合的な防災・減災対策に努めています。

こうした現状を踏まえ、安全・安心に暮らすために、まちづくりの分野としては、水害防止への対応、防災公園等の機能の拡充、指定避難所の耐震性の強化や防災設備の充実、防災マニュアルやハザードマップの周知などの対応が求められています。

【生活環境からみた課題】**⑦誰もが地域に住み続けられる安心・快適な生活環境や福祉環境の充実を図ること**

昭和町第6次総合計画策定に際して実施した「町民まちづくり意向調査」や本都市計画マスタープランの策定に際して実施した「住民アンケート調査」及び「住民ワークショップ」においても、この町が住み良い、住み続けたいという住民が極めて多く、その理由に、災害が少ないこと、買い物が便利なこと、生活基盤が充実していること、子育て、福祉、医療サービスが充実していることなどを挙げています。

本格的な少子高齢社会を迎えた今日、高齢者をはじめ、誰もがこの町に安心して住み続けられるよう、豊かな環境への配慮、生活道路の改善、歩道の設置や通学路などの交通安全対策、公園や下水道の整備、文化施設やコミュニティ施設、医療・福祉サービスの充実、子育てしやすい地域環境の充実、教育の充実に向けた施設の更新や整備の充実、地域コミュニティの維持など、身近な生活環境や福祉環境の一層の充実を図ることが必要です。

